（６）通訳・介助員養成講習への要望・ニーズ（自由回答）

①講習内容に対する要望

A. コミュニケーション・通訳方法

A1. コミュニケーション技法全般

・今までの自分のスキルレベルから、音声通訳の方法を主に学んだが（手話が登録通訳などの資格を持っていないので）、他の通訳方法はほとんどさわりだけで終わってしまった。もう少し時間をかけて、コミュニケーション方法のいろいろを学びたいと思う。
・手話も点字も指点字もどれも大切なのに、時間の限られた講習会で身につけるのはとても難しい。講習会で習ったことはきっかけに過ぎない。あとは努力が必要だと思った。私の地域では、毎月学習会があり、PR もなされたので、それがとても良い。
・実際に、通訳・介助を必要とする人のコミュニケーション方法についての講習が多いと良いと思いました。
・××県では音声、パソコン、筆記について時間数が少ない。
・触手話、手のひら書き、指点字などもっと講習が受けたかった。
・手話、指点字といったコミュニケーションに触れる時間を多く作ること
・通訳をするにはまだまだですので、もう少し上達するようコミュニケーション方法全体について講習会をしてほしいです。
・音声・手話・点字・移動介助等すべての時間をを増やしてより多く講習するべきだと思います。全体的に時間が足りず体験のみで終わってしまい、実地で習得しなくてはいけないので危険だと思います。
・点字・指点字・手話の練習
・コミュニケーション
・具体的に、１つ１つのコミュニケーション方法について研修したい。
・指点字や手話の基礎をもっと取り入れてほしいです
・もっとコミュニケーション方法、移動介助、必要と思います。
・障害別のコミュニケーション。多数の広がりのため。対応に苦労する。
・上記コミュニケーションの講習がほんのさわりだったので、もう少し深めて講習を受けたい。
・基本が手話なので点字はほとんど役に立っていない。時間がもっとあれば覚えられたかも知れないが。
・コミュニケーション方法をもっと勉強させてもらいたい。たとえば、手話も基本だけでなく、あいさつ程度が盲ろう者と対話できるくらい初心者にも教えてもらいたい。
・手話や点字の知識があって参加するのと、まったく知らずに参加するのでは、理解するまで時間差があるように思う。上記の問いにあるコミュニケーション方法
・いろいろな盲ろう者の個性のコミュニケーション方法を身につけたい。××県以外の盲ろう者と接したい。
・指点字や筆記（パソコン）など、盲ベースの盲ろう者にも対応できる講習も必要かと思います。
・いろんなコミュニケーション方法の講習は必要だと思いますが、地域によっては全然必要のないコミュニケーション方法もあります。講習のむつかしさを感じます。
・さまざまなコミュニケーション方法についての学習時間が不足していると思う。

・コミュニケーション保障…コミについての講義・実習時間が少ない（全部で 6 時間）時間増必要。
・どれをとっても大切な学習だと思いますが、××県に住んで登録している盲ろう者のニーズに合ったカリキュラムが必要だと思います。盲ろう者がどんなコミュニケーション方法を必要としているのか、そこに時間をとってほしいと思います。ろうベースの人には手話（接近、触読）、盲ベースの人には点字です。最近音声の方も増えているように思いますので、音声又手書き文字もろうベースの方に、又中途の方には必要かと思います。通訳・介助方法も大事ですが、介助の仕方の時間も増やしてはどうでしょうか。通訳・介助より介助を長くすることもあります。
・触手話、ブリスタ等。できる事なら問 15 のすべて必要だと思います。
・触手話、点字（ブリスタ）・指点字、盲ろう者の望む通訳・介助のあり方について、もっと講習が必要
・触手話・・・講習期間内ではとても身につかなかった。時間数少ない。その後の盲ろう者友の会での交流会でやっと少しわかった。　点字・・・自分での復習が大切なので、期間内ではとても時間も足りなかった。
・コミュニケーション方法の実習の時間が、全体的にもっと必要だと思います。
・自分が身につけている方法以外のコミュニケーション方法も講習したかった。全く経験のない方法での講習は受けにくいので、何時間かカリキュラムの中に入っていると学習に参加しやすい。
・コミュニケーション方法は、元々自分が対応できる方法以外は、数回で覚えるのは難しい。
・経験のない人の通訳・介助員としての点字や手話（時に触手話）などの講習を強化することも大切ではないかと思います。
・1 つ 1 つのコミュニケーション方法をもう少し時間をかけて説明してほしい。
・通訳介助、歩行の方法などは経験ないので、講習が必要だと思う。点字、指点字、手話などは短時間では無理だと思う。
・ろうベースの方対象にしていることもあり盲ベースの点字や音声通訳をもう少し学びたかった。
・コミュニケーション方法が多いため、経験のない手段についてはまずこの講習では身に付かないと思います。やはり言語手段にはできるまで時間がかかると思います
・もっと 1 人 1 人の盲ろう者に合ったコミュニケーション方法(特に触手話や指点字、指文字）を熟知できるようにした方がいいと思う
・××県の講習会は、指点字、点字に関する講習時間が極めて少ない。

A2. 手話

・手話を習得している人を対象に、接近手話や、触手話のコツを教えたらいいと思う。
・手話ができないので、手話を覚えたい。音声（聴覚）の意味がわからない。どうするものですか。
・要約して触手話で伝える方法。共通。の「省略単語」を作ってほしい
・通介者の手話のレベルが低いと思います。講習時間も短く、手話だけに取り組むのは難しいと思いますが、個人での学習も必要だと思います。
・指文字、毎日使っていないと忘れてしまう。生活の中で使わないとどんどん忘れてしまう。サークルに入っていると良いとは思うが、時間を見つけて仲間に入れてもらえる様に前向きに行こうと思っている。
・盲ろう者自身の方の手話の数を得られることも大事だと思う。介助も同様に一緒に技をみがく必要があるのでは？と思う。
・実地研修（介助）。手話読み取り（自分が手話を話すときは 1 対 1 の対話ではゆっくりでよいが、相手の手話が速いと読み取れない）。手話の読み取りが苦手なので重点に置いた講習があればありがたい。

・盲ろう者の介助・通訳には手話が必要不可欠ではないかと思います。自分は点字しかできないので、それがネックとなって活動を遠慮してしまい残念です。
・どちらかというと介助の方法に重点的になるが、触手話は普通の通訳よりも難しく、しっかりと学習が必要だと思います。
・弱視（接近）、触（触読）手話がもっと必要（私にとって）と思っています。
・触手話の学習時間を増やしてほしい。手話通訳経験が長くても触手話を経験することはほとんどないので。
・指文字の練習をもう少しやりたかったと思いました。
・私は指点字コースだったのだが、実際に通介をしてみると、手話を利用する場合が多いので、現場で戸惑うことがしばしば…。少しの時間でもよいので、手話（指文字だけでも）と触手話のかたちを学ぶことをカリキュラムに入れて欲しい。又、行政との関係も、実際型働いてみると？？？が多い。もっと実態に合った内容にしてほしい。
・途中、失明の方が多く、やっぱり手話の方が早い。点字は通用しない。
・手話に関しては、講習会内で取得することは無理があるので手話独自の講習会を希望します。
・手話必要。真庭には、そこそこ聴覚障害を持った方がいらっしゃる。通訳ガイドヘルパー　若干１名の盲導犬を連れて歩いていらっしゃる方がいる。点字を使用。あるいは言葉にて会話可能である。
・触手話の講習会をしてほしい。手話通訳とは全く別の難しさがあるので、正確に伝わっているか不安になる時がある。
・手話はもっと行いたいと思う。
・触手話の講習時間がもっとほしい
・触手話について、もっと時間をかける必要があると思います。
・ろうベースの盲ろう者通訳・介助の場合は、手話を使ってコミュニケーションができることが求められるが、養成講座の時間数ではマスターできない。
・接近手話などのコミュニケーション方法と手引き歩行など。
・触手話
・盲ろう者は、特有の手話表現をされる方が多いので、その辺りふくめて読み取り力 UP、また、話してもらう上での上手な進め方（会話のタイミングの取り方）を学びたい
・手話・触手話を重視すべし。応用範囲が広いし、今は当事者の方もこちらが多い。
・手話技術など、コミュニケーションの技術向上：資格が絶対！とは申せないとは思いますが、医療場面に資格（手話）のない方の派遣は不安です。
・聴覚障害者には手話が必要不可欠。手話をもっと知りたい。必要でない講習などない。
・接近手話の講習会の開催を望みます。（聴覚障害者を対象とした講習会）
・講習会では手話は全く教えていただくことはなかったので、その後手話も勉強することになりました。手話を教えて欲しかったと、つくづく思いました。
・触手話の学習
・触手話を実際やってみる時間を講習中にもっと必要と感じた。
・手話を勉強（独学、講習会など）してきましたが、まだまだ使いこなせるほどの語彙力がありません。手話など学べたらいいと思います。（サークルなど紹介してもらいましたが、仕事があり、なかなか行けません）
・触手話を具体的にして盲ろう者の方にわかったかどうか分かりづらいところは何か？を言ってもらう講

習がもっと必要だと思う。
・手話等は覚えるまでに時間がかかります。やっと挨拶程度が出来ても、実際に使いこなすまでに、相手に不安を与えてしまうのが心配です。

A3. 指点字

・指点字は経験がないが、道具がない時には有効だと思うので、別メニューでの講習会があればよいと思う。
・指点字
・障がいの程度がひとりひとり違うのでどれもとても大切な内容です。点字やブリスタはとくに若い人が積極的に勉強する必要を感じます。
・設立されて 4～5 年目ですが、聴覚障害者の方は介助員の講習を受けておりますが(手話 OK)、でも盲ろう者の通訳には、その方に（ろう者）また通訳者が付きます。なので、その方々に点字・指点字の講習を受けて欲しいのですが、我が県では指点字勉強会（平日 2 時間）があるのですが、参加者なし。今、願っている事はろう者も覚えて欲しい事です。
・指点字を使う盲ろう者がいないため、技術練習が出来ないが、講座でもっと勉強したい。地域土地会う専門性を得るため、全国協会での研修をお願いしたい。
・私は手話歴 4 年ですが、点字の経験が全くないまま講習を受けました。3 日間の講習会に参加したのですが、点字はとても難しく、毎日練習しなければ身につけることはできないと思いました。
・指点字の練習をもっとやってみたかった
・点字・指点字についての講習がなく必要と思った。
・点訳が凹面で学ぶため、点字（ブイスタ）を使用する時混乱する
・県内初の指点字通訳が必要な児童が誕生した。パーキンスブレーラー、ブリスタ、ノートパソコン、ブレイルメモ等を使った講習会の開催が必要。（点訳サークル員の講習会参加を促すなど）
・ブリスタ、指点字等を教えてもらいましたが、使う盲ろう者の方が見えてないし、数時間だけでは覚えきれません。それまでに覚えた手話をベースに弱視の方や盲ろうの方とコミュニケーションをしています。
・県内の盲ろう者の人たちのコミュニケーション方法は接近手話、筆記、音声がほとんどだと思います。将来全く見えない、聞こえない、話せないという状況を踏まえて今から点字版のいらない指点字を習得したほうが良いのでは…
・手話についての学習は、サークル等で交流（第 3 者との）もあり、技術を磨くことができると思いますが、点字については勉強の場が少ないので、講習会でもっと時間をとって学習出来ればと思っています。
・点字、指点字の講習時間を増やして欲しい。
・点字について学ぶ必要があると思う。手話通訳についてももう少しレベルアップが必要。
・点字（ブリスタ）は家で練習しないと覚えられない。
・手話（触手話）を主とした講習会だったので、点字（指点字）等の講習を取り入れてもよかったのではと思った。
・簡単な点字講座をしてほしい。指点字も。
・時間数を増やせないのであれば、点字 50 音を覚えることは資料を見て事前に個人学習可能であり、もっと実際の通訳・介助時に必要なルール等の方に時間を割いてほしい。
・時間を少し延長し点字の基本だけでも勉強したいと思いました。

・指点字は難しく、やっていないと忘れてしまいます。現在は移動介助で時間があると時、指点字を対象者と練習します。しかし、移動介助で終わってしまう時が多いです。やはり勉強の場がほしいと思います。
・指点字を勉強したい（覚えたい）
・点字が読める盲ろう者が増えているようですので、ブリスタの学習は必要だと思います。　・指点字の学習は盲ろう者と通訳・介助者双方、共に必要だと思います。
・指点字はもっと講習を受けたい。しかし××県の中で、盲ろう者は指点字を使ってコミュニケーションをしている人はいないようですが。
・ブリスタ、指点字などひととおりのコミュニケーション手段を実習したが、3 日間で身に付けるまでにはとても至らない。
・通訳の方法、例えばブリスタ、指点字などの実技の時間をもっととってもらえたら嬉しい。しかしこれは各自で学習して身につけるべきでしょうか。
・指点字に関しては連続した利用者との特訓的な経験がほしい。平成 25 年 3 月、盲ろう者協会主催の指点字講習会に参加できることとなった。指点字通訳介助ができる自信がほしいところです。
・接近手話は本来手話通訳していたものが役立っています。他の触手話も同様です。個人的には点字関係のものを学習したいと思いました。
・指点字はブリスタと指使いが共通なので講習で取り入れたらよいと思いますが、受け手になってくれる盲ろう者がいないと実現できません。当地では今のところ指点字使用者がいないので。
・点字（ブリスタ)、指点字が必要である。
・指点字の講座も受講したいと思っています。
・指点字：家での練習が難しいため。間違って打っても自分で気づかないことが多いため。
・指点字にもう少し時間をかけてほしい
・指点字は必要かと思います。講習時は覚えていましたが、使用しないと忘れてしまいます。
・ブリスタ系の点字・指点字をもっと身近に覚えられる様に普及できるようにいしてほしい。パーキンスブレーラーがほしいが 8 万円以上するので、手に入れられない。開発してほしい。格安で手に入れられるようにしてほしいです。家でも練習したいです。

A4. パソコン通訳

・パソコン通訳をやってみたいです。ブリスタで自分の口ぐせひとり事を点訳して、皆様と一緒にコミュニケーション情報交換をしたいと思っております。
・要約は長すぎない方がよい。が必要性もよくわかっている。触手話、指点字、移動全てにおいて、もっとノウハウを教えてほしいと思う。
・講習を受けて、学習会では技術をつけて行っても現場の依頼がまだ長崎では（PC)が少なく、経験の回数を重ねることができない。公の場でも歴史のある手書きが知られているため、PC を知ってもらう機会が少ない。
・通訳の際にパソコンなど情報化 IT 社会のものを利用できる障害者もおりますので、パソコンにてコミュニケーションツールとなるためにもパソコンの講習も行きつつ、日常の仕事生活においても自分のスキルアップの活用、障害者への通訳のためにも学び、資格取得への道、格安にて行っていただけると口で話すよりも良い。伝達ツールになり、共存化社会、ノーマライゼーションにも導く手がかりにも、就職困難化を減少になるので、NPO にタイアップ事業をさせず、本当の国、県市町村、団体、産学、民、

官を会社、アドバイザー含み、意見を取り入れて、住みやすい知的でコミュニケーションとれる平穏社会へ一歩
・パソコン筆記の講習を必要だと思いました
・筆記（筆談）は実際に受講生と共に体験したが、盲ろう者の方と交流（実体験）が必要だと思った。

A5. 音声・手書き

・手書き、音声については××県は講習会において深く教えられません。手話、点字のみが盲ろう者のコミュ手段ととらえられているようで、残念です。
・音声、指文字
・会議の時の音声通訳、もっと必要です。
・音声通訳の講習は実感として習ってないので講習会でもカリキュラムに入れてほしい。
・音声、手のひら書き等比較的通訳・介助を始めやすいコミ方法を、講習の中で時間をとってほしい。「誰でもできる」方法だという認識で、自己流で始めがち。必要がないものはないと思うが、限られた時間の中で、ローマ字式指文字は一と思うこともある。
・音声の盲ろう者が増えている現状があり、もっと音声通訳の講習が必要だと思います。
・音声通訳は現場を見ただけのような気がします。体験不足です。
・音声通訳は、簡単に思えるが、実際にやってみると、話者が誰なのかを伝える方法など、他のコミュに比べて、周りの人にも聞こえるので配慮が必要。丁寧に学びたい。
・××県は音声で通訳が可能な方が多いので、その実習を多く取り入れたい
・実際に音声通訳をする時間が短かったので長く講習したかった。
・音声通訳に対する講習が殆ど無い。盲ろう者、各々の方について聞こえ方が違うのでマニュアルは作れないと思うが、最低限必要な係り方への学習は大切だと思う。
・もっと音声についての講習がくわしくやってほしい。
・愛媛ではろうベースから始まった介助員の方が多く、盲ベースの方は少々物足りなくあるそうです。しゃべって説明という意味の研修がもっと必要ではないかと思います。（目をつむってわかる程度の説明など）
・音声通訳についてもっと実習が必要だと思います。養成講習会はその通訳方法を身につけるというより、知るきっかけになるものだと思っています。
・具体的に音声通訳の時の声量（個人個人で違うとは思いますが）盲ろう者と接する際のマナー（雨の時の傘、冬寒い時触手話する時冷たい手でもよいのか？）
・てのひら書きでは、要約が必要なので、講習会の中で要約筆記を取り入れたらいいと思う。
・手のひら書き。講習を受けたら出来ると思う。強さ、大きさ、かな、ひらがな、漢字等を上手に使って通訳が出来たら筆記以外にも通訳活動が広がると思います。

A6. 通訳技術

・音声通訳、手書きのときの内容をスムーズに伝える方法。触手話で内容をスムーズに伝える方法。
・視覚障害者と盲ろう者の方が一緒にいらした場合、残存する聴力による音声の通訳をしていると、「声を出さないで指点字か手書き文字で」と言われ、通訳スピードが間に合いません。視覚と聴覚と盲ろう者の方が一緒にいる席での通訳に関する講習を受けたいです。また高齢者になると指の感覚もあまりなくなってくると言われているので、盲ろう者の受信能力の差を埋めるための通訳者側の技術も知りたい

です。
・場面に合わせた通訳のやり方　ex)会議、大会、個人的な事
・個々の対応の仕方の違いがけっこうあるので、そのあたりをもう少し具体的に学ぶ必要がある。(私は。)これは活動の中でおいおい身に付けていくことでしょうか？
・通訳のあり方や通訳技術習得に力を入れて頂きたいと思います。通訳・介助者の数が足りないので、即戦力になる人の養成が必要に思います。
・盲ろう者の個々に合わせた通訳・介助の技術をもっと時間をかけて学ぶことが必要だと思う。講習は必要でないものはないと思う。音声通訳の方法ををもっと企画してほしい。
・介助中の状況説明（触手話通訳時）
・状況説明の実技に力を入れてほしい。
・言葉の通訳だけでなく、状況説明をする事の必要性を教えてほしい。まわりが今どんな状況かによって、自分の発言も違ってくることもある。
・通訳者として注意すること。状況説明。
・状況説明についてもっと学びたいと思った。例えば、映像を流しながら、室内でやってみるなど…。健常者は無意識のうちに周辺の状況をキャッチし、様々な情報を選択したり判断したりしているので、いざ、他の人に情報として提供する際には戸惑ってしまうものです。講習時間自体が足りないと感じています。そのため、不要な内容は思い当たりません。
・状況説明の時間を増やしてほしい。
・状況説明に関する項目。点字通訳では指点字、ブリスタが主な講習内容になっていますが、パソコンによる通訳も比較的簡単に入れると思います。
・情報保障…状況説明の要領などの講義・自習時間が少ない。
・状況説明も十分講習で身につけられると良い。
・それまで盲ろう者の方と接した経験もない中での受講でしたので、どれもがあまり理解できたとは思えない。「盲ろう」という障害について、具体的な経験、体験もしながらもっと勉強できていたらよかったと思う。状況説明の大切さは通訳を始めてから思い至ったが、もっとロールプレイなどで経験できていればよかったと思う。
・個々の障害に合った通訳介助で、相槌や状況説明の仕方も大事だと思う
・介助や状況通訳がうまくできていないので、もっと学習したい。

B. 実技・実習・演習

B1. 実技

・実習がもっと必要。
・通訳方法、介助方法などの講習会を増やして欲しいです。机の上の勉強だけでは、上達は難しいと思います。
・実技の時間をもっと増やした方がよいと思う。経験が少ない通訳者が不安になり介助者に伝わるような気がする。
・体験実習を多く必要なのでは
・実技が少なかったように思います。
・講義は大変役に立った。もっと実習時間があるといいと思いました。

・実践がもう少し必要だと思いました。
・具体的実習と検証ができる内容が、あればいいと思う。
・もっと必要…通訳方法、技術向上、介助方法、現場実習。必要ないものはないと思う。時間が足りないぐらいだと思う。
・受講してからだいぶ時間が経ってしまったので、あまり覚えていませんが、実習の時間がもっとあっても良いのかなぁと思いました。また、すべてのコミ方法を身につけることは不可能なので、方法別の講習があるとよいと思いました。××県では、初心者と経験者が同一行程の通訳・介助を受けていますが、通訳・介助者からの情報も欲しかったと思います。
・実技・実習がもう少しほしい。
・実技の時間がもっと必要と感じました。
・実践的な講習
・座学よりも実技の時間を増やしてほしいです。講習会を受講する以前での通訳技術の差が激しいので、講習会を受けた後、未経験の人間でも何か 1 つ通訳・介助方法に自信が持てるような内容にできたらというのが理想です。
・必要→実技
・私の場合は、友の会主催の勉強会、交流会でさらに勉強を積めたので、講習会が不十分だとは感じなかったが、そういう場がなかったらと考えると、全体的に時間が不十分であったと思う。内容という点では、実地訓練がたくさんあるといい（実際の通訳・介助場面、外出介助、会議通訳 etc.）
・触手話や手引きの実技
・講習会では説明が多く、もっと実践的にやらせてもらいたかったのと、現在活動中の介助者の話やアドバイスを聞きたいです。
・実技。出来れば 1 対 1.
・実技の時間が少ない。実際に関わりを持ってから得る内容も多々ある。
・実習
・シャドーイングの練習、実践をもっとしたい。
・同行体験、コミュニケーション実技
・机上の学習を減らしても良いのでは？その時間を様々な場面経験にあてて、自分自身の特性や傾向を認識できればよいのでは？
・実技はどのコミュニケーション方法もとても大切だと思います。実技だけではなく、通介者としての倫理をもっとひつようでは？
・実技の時間が少ないので、実技の時間を増やしてほしい。特に、コミュニケーション方法、手話、点字、指点字、手書き。
・実習時間が少ない
・何よりも実践（実習）して、ビデオで撮ったのを見て検証する事が大事。
・実践の時間が必要だと思います。コミュニケーション方法にしても介助についても、ほとんど講義で実際に体験する時間が少ないのではないかと思いました。
・実技体験の実習時間がもう少しあれば良いと思いました
・全般的に実習を多くする。筆記(パソコン）の講習が必要。
・短期間なので、実践的な講習が少ないのでもっとやってほしい。
・実習、交流

・すべて講習が必要ないと思います。実習が一番重要ではないかと思います。（社会福祉制度をのぞいて、点字と手話の講習が必要。不必要な点は、現任研修の実施です。）養成講習会を受講しても、あまり役に立たないと思います。ペーパー講習より、通訳介助の実習時間を多くとった方が役に立つと思います。登録する前に介助員向きか、不向きか体験してみないとわからないものです。
・机上の勉強ももちろん大切ですが、実習を増やし、実際にやってみてわかることを経験する機会が増えればよいと思います。（外出介助や会議などの通訳・介助設定）
・実技・実習をもっと増やしてほしい
・実技実習の時間が足りないと思う（特に）・全体的に養成時間が短いのではないか？ろう者でもなく、盲者でもない「盲ろう者」という独自の障害を正しく理解し、支援方法を習得するには、手話通訳者養成と同じくらいの養成時間をかけて欲しいと思う。
・実技がもう少し時間数があればと思う。個々の科目も時間数が不足では。実際にやってみて、経験を積むことと、日頃からの学習が大事だと思うが、受講後のフォローも大切だと思う。
・乗り物などの移動介助、食事の説明など、実技の時間をたくさん取ってほしかった。
・講義ではなく、実技であるコミュニケーションを学ぶ方法がよいと思う。実技に時間をとらなければ技術は上達しないと思う。また移動介助は、時間が少ないが大切なので、電車なども××県では全くやっていないので、必要と思う。
・コミュニケーションについて、その意味と実技の時間がもっと必要だと思う。・移動介助方法の実技も全く足りない。
・実技も時間数を増やしてほしい。たくさんの専門技術を身につけなくてはいけない。もう少し時間数を増やしてほしい。
・手話、パソコン、指点字、点字、筆記等々コミュニケーション方法の講義はうけました。実際に盲ろうの人と会話をすることがほとんどなかったので実技の時間がもう少し欲しかったです。
・手話、点字など実習を多く入れてほしい
・手話、点字、指文字(日本語、ローマ字）の実技講習は今以上に多くの時間を確保して学習する必要があると思う。
・手話の時間をもっと多く。時間があるといいと思う。
・多様なコミュニケーション方法の実技演習
・実技：コミュニケーション方法について、伝わる方法を習得したい。

B2. 現場実習

・現場実習に時間をかけてほしい
・現場での実践に近い通訳練習
・講習後、先輩の介助員に付いて実地体験をさせてもらいたかった。
・実際の活動現場で講習を受けたい。
・現場に出て役立つ内容（実習など）を多くしてほしいです
・実習（現場体験）の時間が少ないと思う。
・現場での実践スクリーニング等の講習を設け、実際に肌で感じてコミュニケーション方法や技術を体得しやすい講習会やコミュニケーション方法のスキルアップのための定期講習会等の機会を設けたらより良い人材育成の促進が図られると思う。
・いろんな場での実習

・実践的な内容（電車、買い物等）
・社会生活における日常の現場講習。
・色々な買い物場面での講習が必要だと思う　・状況説明が難しいと感じている

B3. 通訳・介助実習

・通訳・介助実習
・コミュニケーション別・場面別通訳介助演習。
・実際の通訳・介助を慣れている通訳・介助者と組み（複数ではなく、１対２で）やってみるような内容があったらいいのではないか？盲ろう者と通訳・介助者の２つの視点からアドバイスできると良いと思う。
・通訳・介助している様子を見てもらい改善点などの意見を言ってもらったり、ベテランの通訳・介助者の通訳・介助の様子を見る場があったら良いのかも。
・技術の習得はもちろんですが、通訳実習をたくさんできる講習会が望ましい。体験したいくらいのものでは足りない。
・状況説明、補助説明、複数通訳・介助員がいる場合のフォローのしかた。具体的な場面で想定される実習ができると良いと思います。
・通訳方法、移動介助方法。すべてに講習が必要。

B4. 疑似体験・ロールプレイ

・盲ろう者一人一人、状態が違うので、本人が希望する通訳介助の方法をすっと積極的に出してもいいのじゃないかなと思う。アイマスクや耳栓をして外出しての(または室内での)疑似体験はとても参考になると思う。
・盲ろう者としての体験コーナーは盲ろう者の立場、不安（気持ち）等知るためにはとても大切だと思う。しかし実際の問題としては、一度体験学習をしたら何回もは必要ないと思う。両者の間でコミュニケーションがとれることが大事・
・受講生自身の障害程度、コミ技術に差がある限り、不要な講習はない。ただ、広島においては「弱視擬似体験」を取り入れてほしい。仮に、皆さんが「不要な講習」と考えているとしたら、「不要な人間（受講生）」はだれか？を考えている。としか思えない。
・疑似体験は絶対必要。盲ろう者の要望を聞く（生活の中で何が困るか、どう接してほしいかなど）
・盲ろう者疑似体験で移動が必要か？慣れてからの体験はいいと思うが、コミュニケーションや概論も分からない段階で盲ろう者の体験をするのは、恐怖を与えないと言っても恐怖でしかない。体験する時期の検討必要かな？
・盲ろう者体験は大変役立った
・盲ろう者一人一人の障害が異なる為に、実践しなければ理解できないので、もっと疑似体験が必要と感じた。
・アイマスクやヘッドホンをつけての介助される側の体験は必要だと思います。もっともっと。
・シミュレーション、ロールプレイを増やしてほしい。
・実技（各コミュニケーション方法）とロールプレイングによる研修の時間をもっと増やしてほしい

B5. 盲ろう者と接する機会

・盲ろう者とともに話す講習（時間）を増やす
・講習時に、盲ろうの方と１対１での会話がなかったので、実際に行ったときに不安を感じた。
・実際に盲ろう者とコミュニケーションを取る、通訳する、介助する実習の時間がもっとあったら良いと思う。盲ろう者の負担を考えると、無理かもしれないが…
・盲ろう者とのコミュニケーションする時間を多めに入れてほしい
・いろんな盲ろう者に接する機会を増やすことが必要だと思う。すべてのコミュニケーション方法を習得する事は難しいので、各々に合うコミュニケーション方法や接し方を見つけられるような講習が必要かと思います。
・盲ろう者との会話のできる時間が多くあると良い。
・地域の盲ろう者と直接ふれあうことは必要だと思う。相手を知れば工夫するから。
・盲ろう者は、一人一人見え方も聞こえ方も違うので、いろんな盲ろう者と接し、交流ができる体験講習がもっと必要だと思います。
・私が受講した時は、触手話実践時間が短く、盲ろう者との触手話実践はありませんでした。今は盲ろう者との実践もあるようです。
・盲ろう者本人と話す時間がもっとほしい。
・講習では、さまざまなコミュニケーション手段を持つ当事者からの話を聞くことができて良かった。又実践もあったが、実践の時間をもっととって欲しい。この中で学ぶ事が大切と感じた。
・盲ろう者や弱視の方と直接ふれあって、話がっできる場（時間）が少ない。１人１人がもっと話ができるといい経験になると思います。
・一人の盲ろう者とだけでなく、たくさんの盲ろう者と関わる機会がもっとあると良いと思います。
・盲ろう者を講師として通訳介助の体験をする時間数がもっと多ければ良いと思いました。通訳の方法の習得は講習会の時間内ではできないので、受講後各々で努力して身につけると思います。講習会では実際に盲ろう者と出会う機会を多く設け、通訳介助活動に積極的に取り組んでいこうというモチベーションを高めるようにすればよいのではないでしょうか。
・講習会のとき、盲ろうの人との接する機会が少ないので、講習会の時に、一緒に対応出来るといろいろの人と接する事が出来ると思いますので、やってほしいです。
・盲ろうといってもいろいろな方（盲ベース、ろうベース）がおられるので、それぞれじっくりその方との会話など含めて実践練習をもっとしたかった。
・盲ろう者の擬似体験は必要。盲ろう者と色々な通訳・介助方法でコミュニケーションがとれた時は、とても嬉しかったので、盲ろう者と色々な通訳介助方法を実際に体験することは大切だと思います。
・実際に盲ろう者と接する時間をもっと作ってもらいたいと思う。
・障がい者を含め、実践的な実習。いろいろな場面を想定した実習。
・盲ろう者との交流が必要。・実際に技術を試すことがいる。・いろいろな場面を経験したら良い。
・盲ろう者ともっと会話、ふれあい、交流をつくってほしい。
・講習会の中でも、盲ろう者の方々との交流、実技等含まれていましたが、受講生側からすると、盲ろう者への声かけ等、積極的に出来にくいので、盲ろう者の方々からの声かけ等がもっとあれば良いと思った。実技も、もう少し増やしてほしかった。
・初対面の方との接し方をもっと詳しく習えるといいと思います。どんなことを確認すべきか、自分の何を伝えるべきか。ケースバイケースとも思いますが、初めて車イスの方と電車を利用した時、方法がわからずあわてました。タクシーの乗り方も心配でした。

・盲ろう者との交流する時間が多いと良いかも。（講義で習った以上にコミュニケーション方法や難しさを学べるので）
・多くの盲ろう者との出会い
・盲ろう者の方とお会いする時間があると良いと思う。家にいてもなかなか参加される方が少ない（盲ろう者）。
・実際に盲ろう者と関わる機会を増やしてほしいです。一人一人違ったコミュニケーション方法を体験したいです。
・盲ろう者とのコミュニケーションのとり方は１人１人違うので、どの方法でコミュニケーションをとるのか、コミュニケーションがとれるようになるまでの盲ろう者との触れ合いを多くする内容があると良いと思う。実技も多い方がよいと思う。
・実践編（体験）、盲ろう者との実践を多く。→ある程度慣れるまで繰り返しては？
・盲ろう者との交流の時間、そして先輩の通訳をしている場面をもっと見たかった。どのような情報をどういうタイミングで伝えているのかなと。
・実際に盲ろうの方と接して通訳する機会
・必要なもの：盲ろう者と直接話したり、実際に外に出てガイドすること
・あまりに短時間であった。盲ろう者との交流体験がもっとあると良い。
・盲ろう者を体験する時間をもっと増やす。バス、JR 乗降の体験が必要。当事者の私生活を DVD 等で見せていただき、困っていること等や自分で出来ること等を学びたい。また、当事者の声を聞きたい。

B6. 移動介助

・移動介助方法の指導時間がもっとあっても良いのではと思います。
・移動介助の時間　実習不足・スキル的にスキルアップの必要性・現場での実施上のスキルの問題（連携 etc.）・元々資質的に通訳・介助員に向いていない人も多くいる
・移動介助の実習や事例検討の時間が、もっとあったら良いと思います。
・移動介助の体験時間をもっと多く願いたかった。
・ガイドの方法、技術についてもっと時間をとってほしい。触手話、指点字は実際の交流でするほうが良い。
・移動介助について時間数を増やしてほしい。
・講習会では、時間数の少ない誘導解除の実践を増やしていただきたいと思いました
・移動介助の講習はもっと必要だと感じる
・移動介助の講習（実技）がもっとあると良いと思う。
・移動介助の実技講習の時間がもっと必要だと思う。
・移動介助の実習の時間をたくさん取ってほしい。即、登録、依頼を受けるのは難しい。
・移動介助の時間はもっとあった方が良いと思った。
・移動介助の実習時間を増やして欲しい。（例：バス、電車等交通機関の乗り降り、エスカレーター等）
・誘導介助技術についてもっと多くの時間をとるべきと思った。私自身は視覚障害リハに関わっているので分かっているが、そうでない人は大変だったと思う。コミュニケーションの習得については時間がかかるので終了後も勉強を続けられる場があればいいと思った。
・盲ろうの方を介助する実技の時間をもっと増やしていただけたらと思います。講習時間も決まっている中で、講習会を受講する方が多ければ多いほど、指導する方たちも時間に追われてしまい、満足のいく

指導が行えないと思うので、余裕を持った講習内容にしていただければ、養成講習会が充実したものになるのではないかと思いました。

・誘導方法などもっと時間があればよいと思う。　・日常生活の介助の方法はもっと必要だと思う。
・手引きの実技時間がもっとあれば良いと思いました。
・移動方法についての実技時間も増やしてほしい。
・ガイド実習の時間がまだとれると良い
・移動介助の実習時間（車での移動、公共の乗り物などの）を増やし、注意点や気づきを学べたらよいのではないか？と思う。
・介助についての実習や学習がもっと必要
・外出時における講習時間が少なかった。また、相手が女性・男性の時の注意点点
・カリキュラムの中で必要でないと思う内容はありません。実習の時間（電車やバスに乗る外出）がもっとあってよかったかと思いました。
・移動介助。
・外出したときの移動の講習。
・手引き等実践してもらい分かりやすかった。ただし、盲ろうの方も実体験をしてもらわないとスムーズにできない。両方が同時に勉強できる場が欲しい。
・移動介助の担当講師が盲聴者でした。（盲ろう者の知識がない講師でした。）講義内容が、盲ろう者にそぐわないものが多く不必要だったと思います。
・誘導介助、コミュ方法別の支援方法や通訳方法
・手引き等の実技。障害についてももっと詳しく知りたい。
・移動介助の講習、触手話、指点字の講習がもっと必要。
・とっさの危険状態を退避するための実習時間を多くして欲しかった
・実践的な行動（電車、バス、エスカレーターの乗り降り）。状況説明。
・屋外での実習を増やし、いろいろなコミュニケーション方法の方の通訳・介助方法を学びたい
・盲ベースの人の移動
・屋外での手引き介助
・移動介助の講習(現場で役立つもの)必要。・指点字の講習をもっと勉強したい・駅、デパートなど、実際役立つ講習が必要(大分ではほとんど施設内のみ講習)
・外出の実習がもっと必要
・視覚障害についてのガイド方法、盲ろうの疑似体験、××県について必要。国リハ講習会は充分勉強できた。
・介助方法については、具体的にもっと教えてもいいかなと思います。正直、初心者でも入りやすい分野だと思うので。福岡では、点字は紹介程度だし、パソコン通訳は、私たちは別に学ぶ機会を設けてもらいました。今の講習会内容は「盲ろう者を知ってもらうこと」がメインで、技術習得ではないので、どうとらえて行くかが先ず問題かも。
・バスの乗降、汽車の乗降、歩行時の介助（実技）等の時間を更に費やした方が良いのではないかと思います。
・道の歩き方、エスカレーター、階段など、講師に細かく指導してもらいたい。また、当事者（盲ろう者）に通訳・介助者との行動の中でどんな時に不安だったとか、体験談をもっと聞きたい。
・介助して実際に食事、街中を歩く、電車、バスに乗るなどの時間がなく、グループ（５～６人）に盲ろ

う者１人なので、わからないまま終了した様に思う。時間が不足。
・移動介助、特に階段の上り下りの練習、食事介助の練習がもっと必要だと思います。
・乗り物の乗り降りは、もっとけいけんしたかった(バス、電車)。・エスカレーターの乗り降りのタイミングは、危ないので、繰り返し練習が必要。・受講生が多いためか、指導者が１人だけのためか、とても時間がかかり、グループで指導者が進めてみてはどうか？・盲ろう者との交流をもっと体験したかったが、受講して良かった。自分が盲ろう者として体験した時、視覚聴覚以外の神経を使いとても疲れ、盲ろう者のご苦労が分かった
・バスや電車など乗り物での手引きで、いろいろなケースを想定して講習することが大切です。
・介助方法の実技
・移動介助
・講義と実技が半々程度だったが、もっと街中の実技訓練が必要だと思う。また、養成講座が終わると学習する場があまりなく、気軽にできる学習の時があればよいと思う。
・介助実習を増やしてほしい
・移動介助：実際の通訳・介助場面での対応の仕方
・屋外での実習、交通機関を使っての実習、雪道での実習が必要。
・歩行介助について、いろいろ体験する講習があればよいと思いました。
・移動介助の現場実習
・通訳実習、移動介助実習
・移動介助等の体験学習を増やし、実践に即した内容にする。
・移動介助に関しては同行援護などの研修の方が役に立ったように思います。（別途同行援護のみ研修を受けて、それ以外の研修をするという意味です。）いろいろなコミュニケーションの方法がなんとかできるから「通訳」への研修があればいいと思います。
・介助方法
・街歩き。講義後の実習をより多くして欲しい。
・移動介助がやはり不安です。改めて何度も講習で実技の練習をやりたいです。
・講習やエレベーター・エスカレーターのサポート等は、屋内で、ほとんど誰も（一般の人）がいない所で行ったが、実際の場所（駅や店等）でのサポートの仕方も体験した方が良いと思う。
・介助の場合、駅の状況（バリアフリーの整備のあるなし等）、対象者の性別、年齢、コミュニケーション手段、介助者との身長差、杖のあるなし…等、実際に経験しないとわからないことは多くありますが、事例として具体的に整理して、養成講習会の時に少しでも学習できたらよいと思います。
・通訳の仕方も質の向上の為には必要だと思いますが、利用者との外出での介助はもっと講習があればと思います。（利用者の方々の意見も取り入れて）
・通訳・移動実践（技術）
・介助の仕方（移動）
・公共の交通機関の実習をしてほしかった
・外出しての実習
・盲ろう者は一人一人状況が違うので、危険回避の具体例などをもう少しお聞きしたかった。
・講座で実習をします。その際建物の中が多かったです。なるべくでしたら外での実習の回数を増やしてはどうでしょうか？（危険なのも分かりますが）
・階段やエスカレーター等の昇降は必要。

・歩行介助の方法をもっと勉強したいと思いました。補助具をつけての研修で、目と耳が不自由であることの不便さがよくわかり、コミュニケーションをとる難しさも理解できましたので、歩行介助の方法をもっと練習したいと思いました。
・講習会の内容がコミュニケーションの比率が高かったので、手引きについても理論と実習とも、より深く学びたかった。
・実際に盲ろう者を介助する実習。
・手話通訳者としての活動はしていたが、視覚障害については全く知識がなかったので、電車の乗り降りなどをもっと教えてほしかった。
・介助の方法、特に乗り物やエスカレーターなどの移動の講習がもっと必要だと思った。
・移動訓練を様々な場面・場所で行ってほしい。
・ガイド実習がもっと必要
・盲ろう者行動授受（ガイドヘルプ）　（移動介助）
・介護実習…特に、電車の乗降、エスカレーターの利用が現在ないので必ず必要。他に会談、格差、椅子、狭い所など実習時間が不足。
・外での移動介助が必要だと思います。
・移動介助、簡単な身体介助
・弱視や全盲の方の介助方法（ろうベースの方の）の練習時間の確保、盲ろう者の疑似体験も必要（見え方、視野等）
・移動（手引き）の面に関する研修が不十分に感じます。往来の多い場所や通路などでも立ち止まって通訳（話）に夢中になる介助員が多い。
・介助の実践
・実際介助してみると、移動介助が最も難しいと思う。安全に安心して移動介助する為には、経験が必要だと思う。(回数をこなす)。その為、3 日間の講習の中で、体験はしたが現場ではとまどってしまうことも多い。
・外出時の介助がより必要
・ガイド技術と当事者の話は必要
・手引き実習で、周りの状況を的確に伝える能力の向上に。
・介助技術の向上
・当時は歩行の実技がなかったので、実技がほしかった。
・ガイドヘルパーの基本的なこと。
・ガイド方法をしっかりと教わりたい。
・ガイドの方法
・移動の介助：外出時の安全は必ず覚えていなくてはと思う。信用第一。です。
・介助のマナー、方法について具体的にはじめから講習が必要。
・私はコミュニケーションはまあまあと思うのですが、介助の方をもっと学びたいと思っています。
・移動介助の方法がもっと必要。音声による通訳・介助は、現在、対象の盲ろう者がいないが、今後のために必要。指点字によるコミュニケーションは、××県には対象の盲ろう者がいないが、今後のために必要。

B7. 事例検討

・事例検討、実際にたくさんの当事者と会って様子を見たりコミュニケーションをする
・事例検討の機会がほしい
・通訳・介助員が自分１人のことも多いので、事例検討により、対処方法を学びたい。
・さまざまな場面を想定した事例検討などがあればいいなあと思いました。現場に入ってから、困ることが少しでも減るかなと思います。
・介助場面、通訳場面での事例検討的なものがあれば良いと思います。様々な移動介助の時間がもっと多くあれば良いと思います。
・介助時の対応、対処の仕方の事例をたくさんお聞きしたい。
・事例の場面ではモデル例も見せてほしい。
・事例検討、通訳介助を行う上でのマナー、ロールプレイ
・重複障害や年代層、個別な事例に対応する対処方法や事例。

C. 盲ろう障害以外の困難さへの対応

C1. 盲ろう児

・先天性盲ろう児への言語獲得の方法が必要。先天性盲ろう児への先進的制度（外国も含め）が必要。
・盲ろう児と遊ぶ講習。
・盲ろう児のコミュニケーションについて、盲ろう教育についてがあまり取り上げられていないので、ぜひ充実させていただきたいです。特に、先天性盲ろう児・者のコミュニケーションについては、理解が進んでいないのが現実だと思いますので、ぜひお願いします。
・コミュニケーションスキルを持たない盲ろう者へのアプローチ。自分で判断が難しい盲ろう者への通訳のしかた etc.どう引き出すか etc.
・盲ろう児の通訳介助活動のための講義が足りなかった

C2. 車椅子介助

・コミュニケーション方法も重要だが、以外にも車いす使用者の介助が出来ない介助者が介助に応じて危険な思いをした利用者さんがいたので、もっと介助方法についても実技を増やしてほしい。
・個人的ですが、盲の方(視覚障害者)へのガイド方法や車いすのガイド方法を実践的にもっと学びたかった。
・手話、点字に関しては養成講習秋だけで通訳できるようになるものではないので、こういうものだと紹介する程度でもよいと思います。一方、移動介助の実習はもっと時間数を増やしても良いと思います。また、最近、車いすの盲ろう者も増えてきていますが、車いすの実習はなかなか受講する機会がないので、養成講習会でやるのも良いと思います。
・車椅子の盲ろう者が増えてきています。簡単な（初歩的）車イス介助も講習にとり入れてほしいと思います。

C3. 盲導犬

・××県で盲ろう者で盲導犬を利用されている方がいますが、通介者に対しての対応、扱い方などの講習がありません。(盲導犬）は杖と思ってくださいとコーディネーターから依頼がありましたが、犬は生

き物です、いくら訓練されてるとはいえ、時にはさまざまな動きもします。改めて講習会等を開いてほしいものです。

・盲導犬を連れている盲ろう者に対する対応方法と盲導犬に対しての基本的な知識を学びたい。指点字をじっくり学びたい（6Hのみの講習しか受けて無いため）

C4. その他

・私が月に1～2回行っている方は、弱視・難聴・知的そして他の病気を持っている方なので通訳と言うより介助が多くなります。でも講習を受けて、今まで知らなかった事（チョットちがった世界のような）を知る事が出来てよかったです。

・盲ろう者はすべての方が同じ障害ではないため、盲ろう者に合った講習が必要。他に盲ろう者の他に精神障害がプラスになっている方がいた場合の講習も必要と考えます。

・高齢の盲ろう者に対しての介助の方法を学びたい。

D. 盲ろう者の状況の理解

D1. 盲ろう者の心理面

・盲ろう者のメンタル面の状況や問題点など理解した上で通訳・介助した方がより良い支援が出来ると思います。

・盲ろう者の心理等

D2. 盲ろう者の体験談

・盲ろう者の体験談はとても参考になった。（困っていること、実際の介助でこうしてほしいということも話していただけると良い）。

・盲ろう者の体験談は短時間でポイントを絞り、色々の方に伺いたい。

・私が受講したのは初年度だった為、現在とは違っています。今年度の講習会は当事者（盲ろう者）の話があり、とても良かったと思います。（内容は日頃思っていること、経験したこと、当事者からのお願いなど多岐にわたる話でした。）

・盲ろう者の実態を、盲ろう者（本人）の生活・経験等直接的な講演また、体験を通してコミュニケーションの大切さを重視しての活動教育を行うことが重要と思われる。

・当事者の講習：生の話を聞くことで、必要性がわかったり、自分の努力でコミュニケーションが深まるのが楽しくなる。

・必要‥盲ろう者の体験談や生活の様子などの話。

・盲ろう者の立場になり、通訳・介助者にされて嫌だったことを挙げ、仕事をする際に、もっとこうした方が良いなど盲ろう者からのアドバイスや意見の講習会（以前受けてためになったので）例：通訳・介助者は自分の会話やしたいことを優先せず、あくまでも担当盲ろう者を最優先するなど。

E. 通訳・介助業務の理解

E1. 通訳・介助員の倫理・責務

・盲ろう者は通訳・介助員の伝える事が全ての世界に居る。私たちの責任は大きいと言える。盲ろう者を連れまわす、意志をしっかり受けとめず介助員側の向きへ誘導してしまう事も知らずのうちにあると思う。理念・原理をもっと学びたい。また、介助員お互いが忌憚なく意見を述べ合い研鑽していく姿勢も養成中に身に付けたほうが良い。
・通訳倫理。
・盲ろう者に対する退陣援助技術や通訳・介助員の倫理を学ぶことも必要だと思う。そもそも現在の養成講座のみでゼロから通訳介助の技術を身につけるのは不可能だと感じる。
・実技も必要だが、マナー、ルール、当事者の主体性を尊重できるような考え方を身につける講義も充実させてほしい。ブラインドベース向けの通訳者が少ないので、時間をかけて習得できる場が欲しい。
・通訳技術とともに通訳者としての倫理、言動を厳しく講習する必要がある。通訳・介助員の質の悪さが目立つ。
・お世話型の通訳・介助員が増えている。自立支援に向け、盲ろう者が自己選択できる情報保障が必要とされるので、盲ろう者の心理だけでなく、サポートする側の心構えを講座に盛り込んで欲しい。
・講習内容の 9 割が盲者の手引きでした。それは大切なことですが、コミュニケーション手段をもっと取り入れてほしかった。また、通訳者としてあるべき姿、してはいけないこと、しなければいけないこと、現場経験の豊富な講師からの学びや、盲ろう者自身が講師となってもっと学びたかった。今後も要望していきたいと思います。
・すべてにおいて、もっと学習して身につけなければと思っている。援助技術、個別対応に不安を感じる。
・通訳者のマナー、通訳の在り方
・技術的なことはやはり実践を通してより深く学んでいくので、それ以前の盲ろう者が望んでいる通訳・介助者像というか、あるべき姿などをもっと具体的にいろいろな思いなども活かしてもらえると質的（マナーなど）が向上すると思う。
・ケースワーク（ソーシャルワーク論）が必要だと思う。盲ろう者をどう見て同援助していくかの視点が最も大事である。
・守秘義務の基本
・通訳・介助員としての心構え、モラルについて踏まえる必要がある。技術のみに走ってしまう方が多い。盲ろう者に対して理解を深め興味を持ってもらう事が、長く介助員を担っていける事だと思うので、当事者の方の話は必要。コミュニケーション方法の中で、県内におられる盲ろう者の中で使っていないツールの講習は深める必要がない。
・通訳・介助者のあり方を具体的な例を挙げて検証する必要があると思う。例えば、服装、利用者に対する接し方。余りにもなれなれしく利用者に接し、言葉遣いも同様になれなれしく話す人がいる。また、守秘義務の線引きは難しいが、利用者、介助者、両者に共通認識を持つようにしてほしい。
・スーパーバイザーをつけての通訳・介助・基礎的な対人援助技術（受容、傾聴、共感など）・自己決定が難しい盲ろう者への支援(介入的な通訳・コミュニケーション支援)の方法
・心のコミュニケーション(接し方)、指点字
・通訳者としての心構え・通訳技術はもっと必要。
・通訳・介助の仕事は何か？プライベートと仕事を区別できない。「読み取れな～い！」と平気で言う手

話通訳者がいる。

・講習が必要なのは、職業倫理や他業種（手話通訳や要約筆記等）の仕事、調整（場所の確保など）について。現場で学べることも多くあるが、事前に知っていることで、よりスムーズに、通訳・介助が行えると思う。

・通訳介助時にやってはいけないことなど、詳しく教えてもらいたい。どこまで介助をやってよいのか。盲ろう者の方もわかっておられない場合がありました。必要以上な介助をやってしまいそうなことがありました。

・援助技術、通訳論

・技術面も必要ですが、盲ろう者との付き合い方というか、心構えのようなことも必要かと思います、

・相手を知り、信頼関係深める事

・必要なこと。障害のある方の人権、自己決定権の尊重

・自身が「手話」「要約筆記」として通訳・介助活動をしていたことと、知的障害者のボランティアをしていたこともあり、触手話や音声をしている方たちの様子を見て、身につけた部分が多かったと思います。個人を尊重しつつ、コミ補助をしていく上では、技術のみならず、障害者対応の勉強をもっと増やしていただければと思います。

・登録者としての倫理、個人情報の扱い等の講座が必要だと思う。

・通訳・介助者としての自覚、責任、モラルについて・技術向上

・「盲ろう者の主体性を損ねない通訳・介助」「盲ろう者の主体性とは」などのテーマの講習会

・介助は世話をすればよいというのでなく、相手の気持ちをまず第一に考える事が大事。世話のしすぎは相手に迷惑。状況説明できるよう日頃から心掛けることが大事

・必要：通訳者としての心構え（悪い例も説明が必要)、通訳実習

・モラルや盲ろう者への理解も大事。

・技術ではない面、意識の持ち方など基本的姿勢、守秘義務など。何より大事なところだと思うが。その点を強調すべきだと感じる。足りない。もっと言えば、足りない人が仕事をしているのではないかと、不安を感じる。

・移動支援、通訳・介助支援、その他利用者の人権を守る行動、活動、学習、実習が必要。各自治体での研修の充実。当事者からのニーズをきちんと明確にし、支援者側の一方的支援にならないように検証していくことが求められる。

・盲ろう者の支援では、その人のプライバシーにとても近すぎますので、通訳・介助員が守秘義務の講義について、より時間を設けていただくと良いと感じます。守秘義務の範囲など、詳しく教えていただくと良いと思います。

・通訳・介助者としての倫理、盲ろう者の心理なども学べると良い。

・通介員の心構え（倫理）はもっと必要。身につけないで活動している通介員が多い。身につけている人は他制度（手通など）で徹底的に学んだ人で、盲ろう養成のみの人はなかなか難しい。現任研修でもフォローすべき。

・すべての通訳・介助員が、盲ろう者の個人情報の保護に努めるようになるためには、守秘義務についての講習が必要だと思った。

・モラルの講義：守秘義務に関すること。物品などのやり取りなどについて。（私はいまだ身分の保障が…謝金や定期検診の実施など…、まだまだたち遅れている。通訳・介助員とはいえボランティアとは思っていません。お仕事です。金品のやり取りはいかがなものかと考えます。）

・盲ろう者の現状についても必要ですが、もうひとつ、盲ろう者に関る「対人援助」について必須だと思います。
・通訳者としてのマナー
・通訳・介助員の専門性（お手伝い、ヘルパーとの違い）についてもっと講習が必要。
・通訳・介助員の様子を見ていると、自分の判断で行動している面が多く、（例、本人の意思ではなく、介助員が勝手にきめている。）見られる。ろうあ者の場合は視覚で判断できるが、盲ろう者の場合、通訳・介助員の誘導によって成り立ってしまう傾向があり、とても危険な面に遭遇する。ワークショップ的な学習で通訳・介助員の援助方法の学習があれば良いと思う。通訳者は常に自己判断しながら対応しているが、あくまでも自己判断でそれを議論できる場があったら良いと思う。私自身も学びたい。

E2. 通訳・介助員の体験談

・介助員の体験談（良かった点、失敗談等）利用者の希望を聞く
・通訳・介助員の経験者から、活動する上で気を付けることなど、話を聞きたい。・盲ろう者の自立を促すことができるよう、また本人が持っている力を生かせるような通訳・介助の仕方を教えて欲しい。（自分のポリシーで介助してしまっていいのか悩むことがある）・通訳・介助情報の与え方など、技術面ももっと勉強すべきだと思います。
・介助時の問題、疑問等、経験談を経験者から教えてもらいたい
・通訳・介助者の体験談や介助依頼者側の声を聞ける場。
・通訳(コミュニケーションのとり方）やガイドヘルプ方法についての講習もしていただきましたし、介助者としての心構え(個人情報の保護について)も教えていただきました。できれば現在活動している通介者の人と交流を持ち、実際はこんなことがありますよとかこのような場合はこうしたらいいよとか話をうかがう機会を持ちたかったです。
・介助経験者からの談話
・技術だけでなく、実際い通介されている方の経験に基づく、気を付けることや失敗しやすいことを教えてほしい。当事者の講師には講習内容をきちんと伝え、講習できる人に依頼するべきだと思う。
・触手話など、必要なコミュニケーション技術を学ぶのも重要ですが、とにかく受講時は活動していない現場にまだ足を運んだことがない（もしくは実習前）状態なので、具体的な活動内容が知りたいと思うので、経験者や現任者の体験談は、一番実感できる情報を収集できました。ベテランによる話だけでなく、いろんな経験値、立場、活動形態の現任者がこういうことをしていて、こういった準備、意識が必要という話は本当に役立つと思います。対盲ろう者さんとの意見交換も大切だと思います。

E3. 健康問題

・通訳・介助員の健康管理（けいわん予防、ストレスの軽減）に関する講習が必要であると思う。
・体の運動のため、ニュースポーツ体験教室方がいいと思います。
・ケースバイケースの場合、盲ろう者の性格はすべて違うため、活動では常に反省が必要で、次回へのステップアップを続ける上で、落ち込んでしまった場合の解決の方法など・・・秘義務を実行しながらの通訳・介助者のあり方なども、メンタル的な部分も知っていたい。自分でカウンセリングするよい方法など。

②運営に関する要望

A. 時間・回数

・講習会が年に数回又は 1 回位しかない為もう少し回数を増やして欲しい。
・学習時間がもっと必要。
・全ての内容についてさらに深く長時間を費やすべきだと思います。
・すべてではないのでしょうが、時間不足
・盲ろう者に出合ったのが講習会でした。盲ろう者のこと全くわからない時、広く浅くいろいろ授業していただいたのはよかったです。ただ通訳と介助、両方学ぶ必要があり、時間内では理解どまりで、実践には難しい点があったように思います。
・1～2 日間の受講中、例えば触手話はほんの 30 分～1 時間程度の実習では全く身につきませんでした。講演を聞き、身障者(盲ろう者）が本当に生活するにあたって困ることばかりだとゆうのは、とてもよくわかったのですが、この程度の受講、身のつき方だと「次回も行こう」という気にあまりなりません。もっと現実に活動、生かせるような内容がいいと思います。
・××県の場合、3 日間ぐらいの講習会を終えると、その後、教わる機会がないので、なかなか先の上へ進めません。独学に近いですね。
・お互い意見交換だけで終わったような気がする。時間（受講）がないのでしかたないと思うが地元で受ける方が勉強になった。
・講習会はできるだけ回数があるとよい。意見交換をして、現場やコミュニケーションに役立てたい。講習することで研鑽できる。通訳・介助を受ける人に対して、よりよいよりよい理解を深められる。
・時間数が増えれば、それぞれの学習時間の充実を図ってもらえると思うが、増えないなら現状程度でよい。
・20 時間という制約の中では、何をしても中途半端になるので、「もっと○○したい」と思うものの、逆に紹介にとどまり、無駄のようにも思う(コミ方法の学習について)。移動のところは、盲ろう通訳・介助の専門家に習いたい（今は音声での情報保障をしてのガイドになるので、実情に合っていない)。
・重度の盲ろう者に関わる時、様々な知識、知恵、想像力、体力、柔軟な精神力が要求されます。盲ろう者 1 人 1 人の自立とは何か？をじっくり考えて納得できるプログラムで、いつの時にも平常心を保ち続けられる心の鍛錬と豊かな感受性を育てていく訓練も必要だと思えます。　今の講習時間では、盲の人、ろうの人、盲ろうの人に全くかかわったことのない人にとっては活動の気持ちを芽生えさせることさえ非常に難しいように思えます。受講資格から見直して、実際の活動の保障の充分さも確保したうえで、養成していっていただきたいと考えます。座学、実地訓練共十分な時間の確保をお願いしたいです。
・盲ろう者の方のためにも通訳・介助員を増員するため、講習会の回数を増やすべきだと思います。
・もっと移動やコミュニケーション方法について学ぶ時間があったらよいと思います。
・すべて必要でした。もっと時間をとって勉強させていただきたかったぐらいです。
・受講時間はもっと多く。コミ技術を上げるため
・通訳・介助員養成講習会は、もう少し研修の時間を多くとった方が良いと思う。
・自信を持って活動するには受講時間が少なすぎる（講義、実技とも)。
・××県は受講時間が短すぎるので、カリキュラム編成から見直しが必要だと感じています。点字やブリスタ、指点字も含め、盲ベースの方に向けたコミュニケーション手段をもっと修得したいと思っています。

・講習会の日数が多いといろいろもっと学習出来ると思います。
・講習時間が少なすぎて、未経験者には即活動できる内容ではないと感じた。
・カリキュラム内容は充実していると思う。ただし多様で専門的な対応が求められる通訳・介助員を養成するには講習会の時間数が足りないのでは…。
・音声通訳、要約の仕方・盲ろう体験（視力＝見え方、アイマスクをしての食事等）・通訳・介助者のあり方、モラル向上のための講義・歩行訓練（時間数が少なすぎる）
・受講時間が短いと思う。実技の時間を増やす必要がある。また、実技だけでなく、倫理についてや歴史、福祉制度など、もっと手話通訳者養成講座と同じくらい時間をかけて学ぶべきだと思う。
・講習時間が短すぎ。全体的にしっかりと身につけるまでには至らなかった。「指点字」は講習内容に含まれておらず残念。
・基本的なこと（通訳介助の心がまえ、点字やローマ字式指文字、触手話などコミュニケーション方法、通訳上のルール、盲ろう者とその障害について）を学ぶには講習会はぜひとも必要。けれど 50 時間程度の講習では、基本を学ぶので目一杯。実践の時間はもっともっと必要だと思う。
・養成講習（講座）はあまりにも時間が短すぎます。実際の活動での責任の重さを考えたら、もっともっと時間をかけて養成してほしいです。担当する盲ろう者に対して、毎回申し訳ない気持ちでいっぱいになり辛いです。（未熟さのため）
・活動人数も少なく、講習会も回数が少ない。
・もっと講習が必要だと思う.時間が足りない
・通訳面において基礎的な知識は知ることができるが、コミュニケーションがとれるには時間が足りない。他で手話等を身に付けられない人が受講すれば活動を始められる程度の講習内容だと思う。移動介助面では実際に移動するときは初心者でも 1 人で対象者と外出するので色んな場面での安全面の確保の方法（車の乗り降り、電車、バス、エスカレーター等）を出来るだけ多くの場所で実物を使って実技指導をして頂ければ不安が減ると思う。時間も内容も足りない。
・色々なことを一通り受講したが、時間的に少なく、（全体）少々中途半端になった気がする。実際自分が合うと思うこと（通訳方法などで）に関して重点的に選択してしっかり学べると良かった。
・講習時間をもっと増やしてほしい。
・全体的に時間が短かったので、（予算の関係）もっと長期で講習会を開きたい。
・手話のできない聴者（ガイドヘルパー）が多く、手書きがほとんど。36 時間は少なすぎる。それで身に付くとは思わない。
・いずれもとても必要であり、96 時間では足りないくらいです。
・コミュニケーション方法に特化したものではないので、終了後自分での学習が必要ですので、養成講習会はもっと時間をかける必要があると思います。
・養成講習会の受講時間が全 20 時間と言うのは、とても足りなく、充分ではないと感じます。20 時間で人の命（オーバーかもしれませんが）を守る事が出来るのか、盲ろう者を理解できるのか、不安に思いました。
・５日間の講習会だけでは、とても介助員としての内容をまかなえるものではないと思いました。（その後の活動をしてわかりました。）

B. 定期的開催

・講習回数を増やして頂きたい。現状を考えると大変難しい（講師派遣調整、場所の確保等）というお話

も伺ってはいます。手話や点字を主とした具体的なコミュニケーション方法は、繰り返し学ぶこと、日常的に関わっていたりしないと身に付き難いと感じています。「手話クラブ」「点字クラブ」のような形で、定期的に学び続けられるシステムがあると有り難いと思います。障がい者の為のコミュニケーション手段の最新情報の発信とその使い方を知る機会が増えると嬉しいです。

・点字、手話は定期的に講習又は、勉強会が必要だと思う。北国は冬が厳しいと集まりも悪く、月 1 程度でもやらないと継続する事が難しいと考えてしまう。手話は継続して行わないとせっかく学んでも、使える機会がなく、忘れてしまう。
・触手話の講習（練習）とガイド（介助）の講習は定期的に必要だと思う。
・手話、点字。月 1 回の全体講習等。
・継続的な講習が必要だと感じている
・一度の研修では、確実に習得するのは難しいです。介助員としての経験を積むことが機会が少なく、難しいため定期的に講習会を望みます。（全てのコミュニケーション方法について）
・派遣がなく忘れてしまうので、定期的な講習は必要だと思います。コミュニケーション技術については各自に任されているので、具体なコミュニケーション技術の講習があると良い。（例えば、指点字や手話や要約など）
・定期的にしないとできない。
・コミュニケーション方法ごとの、短時間ではない講習があればよいと思います。手話なら、ある程度のコミュニケーションがとれるまで勉強が出来るなど。
・講習をしてほしい、年 2～3 回
・継続して学習が必要。
・××県の講座は手話に偏っている。点字、音声、筆記等、幅広く学んでほしい。又、触手話も、もっと深く学ぶ必要。応用も足りない。全体的に時間が少なすぎる。実際に体験期間も必要と思う。その為には、講座が終わって勉強は終わり、ではなく、ひきつづき勉強できる場を定期的に持つ事が必要と思う。
・定期的な勉強会があると良いと思う。コミュニケーション方法別で自由参加性。
・コミュニケーション方法習得のための自分が希望する継続講座があればと思います。
・手話も点字もすべてのコミュニケーション方法は経験を積むことが一番です。1 回の講習で身に付くものではないので、継続講習が必要だと思います。自治体で開いて頂ければありがたいです。

C. コース別

・手話のできる人、点字のできる人、両方できる人、両方できない人のようなグループに分けて、経験していない学習を多く取り入れてくれた方が良かった。
・私自身は手話も点字もできない時に受講して、一通りの通訳・介助ツールはみたり教えていただきましたが、とても 60 時間では身につくこともなく、その時、手話を学ぼうと思い、新宿区の手話講習会に通い始めました。まだ、資格は取れていないので、現在は中途失聴の盲ろうの方を主に通訳介助しています。なので講習会をもっと手話専門コースや点字コース、ブリスタコース etc.に 2 年目などにスタートして講習をずっと続けてもらいたいと思いました。
・講習で、手話コース、点字コースと分けずに両方すべきであると思います。色々のコミュニケーション方法を身につけないと大在の盲ろう者との会話や手引きが無理だと思います。
・様々なコミュニケーション手段について、初歩的な部分を学んだだけなので、技術的な面をもっと身に付ける為には、手段別の講習があるといいと思います。

・コミュニケーション手段の習得は難しいので、「手話」と「点字」を分けて別途講習があるといいと思います。ただ、手話に関しては通訳レベルまで習得するには地域の手話サークル等で活動するのがベストだと思います。
・もっと必要。触手話、指点字、手引き、あまり必要ない‥。ローマ字式指文字、筆記（パソコン）回数が限られるので、手話や PC 筆記は別事業で行い、ろうベース、盲ベースに分けて養成を募集してはどうかと思う。（ガイドヘルプや基礎知識のところは両方入れる）
・音声通訳は別として、手話のできる人はもっと手話を、点字（ブリスタ）を得意とする人はもっとブリスタ通訳を、もっと正確にと、専門的に技術を高めた方が良いではと思います。
・短期でしたので、広く浅くといった感じでした。点字なり手話なり、受講生に専攻させて下さいませんか。
・受講生の状況に応じた対応を。（受講資格とも関係すると思いますが、すべての受講者が知識、技能関係なく一緒くたに受講するのは無理があります）・総合講座、分野別講座に分けて講習し、通訳・介助の可能範囲をはっきりさせた方が良いと思います。（すべての分野の習得をと言われますが、無理があると思います）・いつも同じ講師です。講師陣の養成を充実し、ポイントをおさえた的確な指導を。
・すべての方法を講習で受けたが時間が少なかった。その中でも自分の不得意な方法を選んで受けられたら良かった。
・さまざまなコミュニケーションを、養成講座で学んだことはよかったが、講習だけで完璧にはこなせるようにならない。各々のコミュニケーションの方法の習得にはさらに格別の学習が必要
・実践のケースが多いもの、点字と手話に分け、その方を集中的に行ってはいかがなものかと思います。また、要約筆記もそれに含まれる。
・通訳・介助方法に分かれての、ステップアップ講座(触手話、指文字、指点字など方法別に)。初めから特化して講座をしてもよいかも。
・人によってさまざまだと思いますが、音声が得意、手話が得意、パソコンが得意など、向き・不向きがわかってくると思うので、そのグループに分かれて、勉強を進める方法もあったらよいと思います。そして少しずつ自信をつけて、また、他の分野も挑戦する力もわいてくるのでは？
・もっと必要⇒触手話、指点字の実践　手話通訳が出来る人、点訳が出来る人、両方できる人と分けて講習があると良いと思います。例)手話通訳のみできる人のクラスでは、点字の基本的なものを学習してから指点字に入るとか、点訳が出来る人は、指点字の訓練時間を多めにするとか、手話通訳者は触手話を重点的に学ぶ等。　※不要だと思う講習はありません。
・手話を身につけている人とつけていない人に分けてカリキュラムを作成して(各々のグループに重点的に教えることを考えることで深く学べると思うので）講習を進めると効果があると思った。ただし、盲ろう者についての知識などは一緒に受講するのが望ましい。
・手話、点字、パソコン、指点字、音声など、何か１つ得意分野を身につける方法はどうでしょうか？一般分野をすべて簡単な知識として学び、自分の介助は何ができるか？得意分野をそれぞれ、力をつけるようにすれば良いかなと思います。
・点字、手話どちらかができて受ける方が多いと思います。不得手な方をたくさん受講できるようにしないと、時間がもったいないと思います。
・各講座ごとの講習会にしても良いと思います。深く学ぶことができるし、よりプロフェッショナルになれると思います。(指点字 only の講習会 etc）
・手話や指点字などは、講習会だけで技術を獲得するのはとても難しい。サークル活動などで、長い年月

が必要。他国の会話を習得するだけの時間が必要です。全く経験のない人が始めるにはとても大変。点字や手話のできる人対象に講習会をする必要があると思う。

D. 日時・場所

・講習が多いのはありがたい話ですがなかなか日、時間合わず。
・色々な方がいるので、できれば講習を受けて役立ちたい。
・自宅に近いところで講習会があれば、都合のつく時であれば参加したいと思う
・手話、点字　日常的な事は講習会で覚えた。国家試験、就職支援、自分に特になることだったら喜んで参加したい。半日でも、盲ろう者と一緒に生活を体験してみたい。病気になった時のことを考えて、社会が教育してほしい。仕事と重ならない時間でしたらぜひ参加したい。
・講習をもっと受けたいと思ってはいますが、県内ではほとんど行われていません。国立リハまでは遠くて行けないのでもっと身近な所で聞いていただけるとよいと思います。
・実技を学びたいが、現在登録しているところは遠いので、出来れば近くで（時間的にでもよいので）身につけたい。市の北部に住んでいるので、周囲は複数の市に囲まれています。県についても一番端に当たります。西に 80m で××市で、交通機関ですと 30 分余りで××区に出られます。居住の自治体にとらわれずに講習、活動ができればと希望します。
・小人数制で近場で、手話等の講習会があったらうれしいです。
・××県は、××市で日頃講習会を実施しています。××市から非常に遠い（往復 5 時間）ので、参加したくても難しい。
・講習会の会場が比較的遠方で行われる為負担もある。出来れば身近な所で開催していただければたすかります。
・養成講習会、県内で開催される行事には、出来るだけ参加させて頂いております。ただ他府県で開催される講座にはなかなか参加しにくい。長距離の移動だけに長時間の休暇が取れない。出来れば近距離で学習のできる場を考えて頂きたい。
・私は一関在住で、実母介護もあるので、盛岡での講習会や泊りだとなかなか参加できない。一関にもサークルがあるが、夜間などのため、介護との折り合いがつかない。時折でいいので、地区ごとに遊びを含めたり、地域での外出（買物）などを含めて、もっと身近に感じるようにしていただくと、通訳はできなくても日常生活に役立つ。
・通訳・介助員養成講習会を受講し、その後都合でパートに出ることになり、たとえば「会」そのものに活動しないと、いつのまにか疎遠になってしまいました。全国盲ろう者協会からの情報をいただくのはありがたいです。技術的な面では通じないことがあっても、続けていく気持ちは持たせてほしいです。
・講習は必要だと思う。しかし、介助活動することが無いために、指点字、手話など使う場所が無いために、必要ではないかなと思うこともあります。病院などで役に立つことがあった時には、勉強させてもらい良かったと思う。しかし、使わないと忘れる。
・全国盲ろう者協会から案内をいただくが、いつも遠くて参加できない。近くに講習会を開いてほしい。
・講習会の場所をもち回りにしていただけるとうれしい。××県在住の者です（××市希望）。
・昨年まで 3 年連続して身内の不幸があり、受講（参加）機会を失った。自分は趣味である落語、昔話などでコミュニケーションを図っていきたい。

E. その他

・講師の養成をきちんとしてほしい。

・講習会を主催する側、コーディネーターの考え方、姿勢、発言、態度に疑問を感じる場面がとても多いです。介助員だけでなく、指導員の講習で意識の統一を計る必要があるのではないかと感じます。

・各々の盲ろう者にあわせた通訳・介助が大切なのですが、聴覚障がい者についてはわかっていることが、視覚障がい者については本当に知らないことが多く、講習会で学べたことは良かったと思います。でも、歩行・移動時の工夫や日常生活での用具など、日常生活用具やそれ以外の普段の生活の中での便利な物や工夫等、一般の話から更に具体的に知らせてもらえると、通訳者も盲ろう者もろう者の世界はわかるが、それ以外のこととなると一般的なことはしってるつもりで知らないことが多々あります。時間の制限もあるかもしれませんが（講習等で無理な時は、ホームページなどの紹介など）お願いしたいところです。

・東京等での講習は受けにくい。六ブロックに分けて細かく指導してほしい。

・通訳と介助をわけて講習した方がよい。通訳は、特に聴覚障害ベースの場合、手話の経験がないと難しいと思う。

・講師で派遣される方は実際に活動されている方に講義をしていただきたい。東京の様な養成講座を開いて欲しい。

・どちらかというと聴覚障がいについての学習に比重がおかれていた。受講生も手話サークルや要約筆記サークルの会員が多く参加していた。もっと視覚障がいについて学びたかった。コミュニケーションは最も大切だが、安全に介助する（いろいろな場面があるので）場合、講座だけではガイドや見守りに不安があると思う。買い物や旅行などでの情報提供の仕方、状況や状態の説明などの学習もあるとよい。盲ろう者の家族のため（盲ろう者理解）に講習会の１講座を当てたらよい。

・総合福祉法など法律が改正され、通訳・介助者として必要な知識が新しい情報として欲しいと思います。

・制度についての講習がなかったので、目的や方向性が分かりづらかった。

・講習会（全国統一）のテキストがあればいいと思います。

・短期間で行うならば基本的なことと「福祉施策の中で盲ろう者福祉の位置づけ」や「通訳・介助員としての役割」などの講義とディスカッションに時間をかけた方が将来的には効果があるのではないでしょうか？短期間で専門技術（点字、手話、パソコン要約など）を習得するのは不可能です。「盲ろう者への通訳・介助」の本を熟読すればわかることは時間をかけず、専門技術習得方法や技術向上方法などは情報提供でよいのではないかと思われます。また、講師についても、当事者だからとても理解しやすい面（生活面について）はあると思いますが、当事者だから、理論的にまた統計的に講義できるとは限りません。盲ろう者の苦悩や障壁を知ることは通訳・介助員としてとても大切ですが、それをどの方向で改善していくかの講義やディスカッションが通訳・介助員の姿勢につながるものと思います。

・・盲ろう者（登録）のコミュニケーション方法にあわせた時間配分。・盲ろう当事者の参加。・アイマスクを使用しての移動。・盲ろう者＝全盲ろうではないことの理解・音声通訳。・必要でないという内容はなし。時間が足りない。

・移動介助の枠の中で、視覚障害者センターでの介助方法の講座は不要では？（聴覚先行の盲ろう者の場合、視覚先行の介助とは全く違うので、受講内容にこだわると、登録後の介助に先入観が入ってしまう。）

・<必要ない>重複施設の見学…全体の時間が少ないのにこの見学時間はもったいない。他の科目を行うべき。

・視覚障害についての学び

・募集の時に「手話が出来る人（日常会話）」を条件にすれば、移動介助やその他のコミュニケーションに時間を使えるのでと思う。
・条件として、手話講座の入門と基礎が終了した人が通訳・介助員養成講習会を受講するのが望ましいと思う。したがって、受講内容は手話（触手話）や点字など中心にもっと充実させ、受講終了後、盲ろう者が少しでも安心して通訳・介助を受けられたらよいと思います。
・当たり前ですが、どうしても頭（知識）が先に出て、利用者一人一人を見る実習がうまくいきません。実習の講習を一緒にではなく、登録後に参加させてもらいたい。
・講習は大切ですが、仕事をしている立場では突然案内が来ても参加ができないので、年間計画で年度初めに欲しいです。
・手話、点字の両方でコミュニケーションができるというのが基本だと思いますが、ろう(手話)と盲(音声)、それぞれのコミュニケーションができるというのと、盲ろう者に対してコミュニケーションをするのは全く違うので、その点をもっと具体的に指導してもらいたいです。
・何が必要というより、手引きに関する研修しか実技としては受けていないため、非常に内容に偏りがある。講習内容・講師に関しても同様のため幅広い内容の講習がほしいです。協会主催や国リハでの研修が学ぶ機会があり、それにより現在まで活動できているが、それがなければ難しい状況にあったと思う。
・講習会は盲ろう当事者が指導しないかぎり盲ろう者の立場は理解しにくいと思う。携わっている盲ろう者を学ぶべきと考える。
・１．必要と思う講習。・コミュニケーション方法。・誘導（階段、電車、エスカレーター、エレベーターなど)。・おむつ交換。２．あまり講習が必要でないと思う講習。・講義（ある程度までは必要だが）

③現任研修についての要望

・通訳、介助を経験した後に、研修が必要だと思った。講習だけではわからなかったこと、具体的にやってみて「もっとここを学びたい」と思うことが多かった。内容のレベルアップといことかな？（初めての講習で、オールラウンドを学ぶことも大切だが、その後のフォローアップの必要性を感じた）心理学的な内容も学びたい。
・やっていないと忘れるので、定期的に講習会があればいいのに（参加人数も多くの人が可能な）
・現任研修への参加により、フォローアップして行くことで技能を補足させたい。
・手話、音声、日本語式指文字、手書き文字、筆談も、繰り返し勉強（講習）が必要。介助（階段やエレベーター、エスカレーター）への誘導の体験も必要。点字も覚えたいが難しいので挫折。普段健聴者との会話でも手話を使ったほうが良いといわれるが、つい言葉だけになってしまう。手話を使う習慣をつけないとダメですね。
・手話にしても、手書き、指点字など、方法を教えてもらうことはできました。その方法を身につける事は、養成講座の時間だけでは無理です。知ってから、自分が使えるようにする努力が必要です。その為には、盲ろう者との交流が一番だと思います。
・久々に通訳介助に携わろうとしている人向けにたとえばペーパードライバー講習のような、スキル確認講座があると復帰しやすくなると思います。
・養成講習会修了後、いきなり盲ろう者と一対一での通訳介助はとても不安でした。私が受講した当時は、修了後先輩に同行したり、講師のアドバイスをいただくなど、フォローしていただけ、とても良かったです。現在はそのようなサポートがないため、修了したばかりの新人さんが盲ろう者主体の通介をして

いない姿が目に付くことがあります。修了後、実技のスキルアップ講座などがあればいいと思います。
・通訳・介助活動は盲ろう者個への対応となり、複数を担うことは難しい。通訳・介助方法も、講習会で受けた基本から変わって行く。個別化することで、基本から外れてしまうケースが多くなる。登録後、定期的なフォローアップ講習（法知識・実技・あり方等）が必要ではないか。
・自治体主催の養成講座　通訳・介助員の数の確保のためにも必要です。　盲ろう者の存在を行政の責任で周知し、介助員増を図るべき現任研修　一度受けて全てを理解できていると思っていても、参加の度に振り返りができるので、何度でも参加可能な研修があるのはよいと思います。
・新規に開発、販売された通訳補助機器を現任研修等では積極的に講習してほしい。
・盲ろう者に様々なタイプ(見え方、聞こえ方）があるので、理解のためには、現在のカリキュラムでもよいと思います。しかし、実際は通訳活動をするため(コーディネーターとして依頼する時には)登録しておられても、通訳の技術も、移動介助も一日ずつしか習っていないと、難しい状況です。県内でも、登録者の現任研修やレベルアップの講習があれば、登録者が活動に結びつくのではないかと思います。
・フォローアップの講習会など受講しました。できれば模範的な通訳などの情報、講習内容がほしいと思いました。ケースバイケースだと思いますが。
・内容というよりは講習会の後のフォローアップ体制、実際の活動につながりやすく、仕組み作りが大切だと思う。
・質問の内容と異なるかなと思うのですが、初めて通訳・介助員養成講習会を受講して、その時は技術の取得まではいかず盲ろう者の事を知った…。私の技術等々で究極な事をいうと命を預かるほどの介助をする事にとっても不安になりました。その後の技術取得は必須。(現任研修等々）
・手話経験が浅い方、経験は長いが日常会話をするに至っていない方のさらなる講習が必要と考えます。研修会、もしくは行事等への全くの不参加の方などは特に必要と思われます。
・１つのコミュニケーション方法についてのスキルアップ講習が必要だと思う。経験のないコミュニケーション方法についての初心者向けの講習が必要だと思う（つまりコミュニケーション別の講習会）
・専門的な内容を深く勉強できる時間、研修があると良いと思います。養成講習のみでは技術習得が難しいので、経験年数や要望に応じたもの、パソコン通訳スキルアップ、指点字スキルアップ、音声通訳など、それぞれのスキルアップ研修（１回ではなく、５～１０回継続性のもの)。
・現在は講習会を修了するとそのまま登録できてしまいます。試験などは特にないので、通訳時の技量にかなり差がでてしまいます。たとえば、講習会で数回学んだだけで、実際に講演会やセミナーなどのむずかしい内容の通訳をしなければなりません。そのあたりの基準を決めたり、ふくざつな内容の際のスキルアップなど時間をとってほしいです。
・たくさんコミュニケーションの方法があるため、１つ１つのコミュニケーションの手段を深められないので、自分にあったものをスキルアップする必要性を感じた。
・養成講習は盲ろう者に関わる以上、全て必要だと思う。単独の障害ではない分、関われば関わるだけレベルアップの学習も必要と思う。
・必要だと思う。音声、手話、指点字。講習会だけでは時間数が足りないが、受講が終わってからの講習、学習が必要だと思います。
・現在は文字による通訳を中心に行っています。盲ろう者との関わりが多くなるにつれ、他のコミュニケーション方法取得の必要性を感じます。現在のコミュニケーション方法からゆけば点字の取得が効率的と思いますが、なかなか機会がありません。こういう時に研修会があればと思います。
・経験年数や習得程度に応じた講習をしてほしい

・入り口が広すぎて、いろいろなコミュニケーション方法の紹介程度の講習会だった。そこから専門的に学ぶにはサークルなどで個人的に技術の向上をはかるしか術がない。選択によって、技術向上のための講習や研修を自治体で開催していただきたいと思う。
・中・上級者向けの技術研修・講習会が必要である→現在の講習会は入門、初級向けであり、各コミほうほう毎の通り一辺の技術指導のみであるが、それぞれのコミ方法に特化した上位クラスの技術指導を、できれば 3 ランクぐらいに分けて行ってはどうか。理論指導は現任研修があるので、従前のままでよいと思う。

④その他

A. 全体的所感

・自治体によって違うが、カリキュラムを毎年工夫されている所もあれば、まったく改善されていない研修（講習）もあります。盲ろう者のニーズに合わせてレベルをあげていく可能性あり。
・盲ろう者の方も、全盲の方、弱視の方等、それぞれ手の添え方、誘導の方法も一人一人違います。又、接近手話、触手話等の表現方法も個人個人違います。そして、手話の中でも、日本語対応手話で表現し、口型を付ける人、簡単に内容を要約して触手話で表す人、全て話者の話言葉の通りに触手話で話した方が良い人等、個人個人全てコミュニケーション方法、情報伝達方法が違います。誘導に関しては、実務経験が不可欠です。又、コミュニケーション方法についても、対象者に合わせた技術習得と講習が不可欠と思います。
・視覚障害に関する講習がもっと必要だと思います。養成講習会は浅く広く、盲ろうの通訳・介助について学ぶため、講習を受けただけでは、実際にはまともな通訳や介助はできません。通訳技術についての講習は、すべてコミュニケーション方法において、全く足りていません。
・視覚障害の基礎知識、聴覚障害の基礎知識、移動（誘導）介助の技能、各コミュ方法の基礎技能（本来は通訳できるまでの講習が必要。）模擬通訳介助講習。上記について必要だと思いますが、私が受講した時にはありませんでしたが、現在のカリキュラムにはあるかもしれません。
・視覚（障害）、聴覚（障害）に関することをもう少し詳しくお願いします。たとえば私は聴覚障害のことを全く知らず、なぜ先天障害の方が、目が見えるのに言語獲得が困難なのかがどうしてもピンとこなかったりします。理論ばかり積むのはよくないかもしれませんが、障害理解をすることが当事者に寄り添うことにつながるのではないかと思います。
・当時は杖無しでの盲ろう者模擬体験がありました。盲ろう者の疑似体験を行うのであれば、白杖は必要だと感じました。
・同じことを何度やっても学習になるので、必要でないものはないと思います。人が不足しているので、新しい方向への講習会が必要だと思います。安全面での手引きは、何度やっても緊張します。
・私にとっては通訳は慣れていたが、介助が初めてだったので講習がすぐに役に立った。相手によって違いがあるので、それを全体で受け止め話し合う事が必要だと思う。手話も点字もすぐに覚えられるものではないので、ゆっくりと時間をかける。講習だけでは難しいと思う。その点を手書きや音声通訳はすぐに出来る通訳方法。盲ろう者本人に会い、話してみることが、意欲を高めるのに大切だと思います。
・同行援護の制度を知る。盲ろう者の福祉を向上するために役に立つ情報を盛りいれる。盲ろう者の心理と支援方法も必要だと思う。
・通訳依頼およびお引き受けする方が偏っており、その方への専門性も必要だが、他の方とのコミュニケ

ーションも体験できる機会がほしいと思う。たとえばセミナーの時に初めて会った盲ろう者に対し、触手話が通じなくて困ったことがあったので。

・盲ろう者にとって必要な介助は多岐にわたっているので、一通り学ぶことは必要だと思う。

・自治体（××県）が養成講座を開始したのが比較的遅かったので、先に全国盲ろう者協会主催の現任研修を受講しました。もう少し講習会を受ける基準等を明確にしていただきたいです。問 13 で回答したように、改めて受けたほうがいいのかとても不安なので。

・養成講習会は、盲ろう者通訳・介助者養成の入り口に当たる総論で良いと思うが、盲ろう者のコミュ手段にかかわる養成は別建てにする又は、すでに技術を習得済みの人（地域行政主催・都 etc.の講習会修了者、地域登録者 etc）指点字なら（点字技術習待者 etc.）に登録を働きかける動きも必要なのでは。イマッハまだ数の論理で動いていると思いますが、将来に向けて盲ろう者向け通訳・介助者の活動指針 etc.整備、登録に向けた整備も必要になると思います。

・すべてにおいて、もっと講習が必要だと思う。ガイドヘルパーも手話通訳も、養成い時間をかけているのに、盲ろう者の通訳介助がこんなに短時間の養成でできるはずかないと思う。

・手話はもっともっと時間を必要とすると考えます。又初心者にとっては段階をもうけ、しっかりと取得できれば利用者の方々にとっても便利になるかと考えます。・パソコンに至っては、本当にブラインドタッチの出来る様な方が求められると思います。・講座に当たってはてんこ盛りにするのではなく、その道の（音声、手話、筆記、ガイドヘルパー）プロを育成する目的をもって開設したらどうかと思いました。

・盲ろう者介助・通訳は幅が広く、奥が深いので、時間をかけてじっくり学習することが必要だと思います。指点字や音声通訳も養成講習会があればよいと思います。手話のように入門から基本・応用とレベルアップしてから介助員の登録（得意分野）もありかと思います。

・様々なコミュニケーション手段をもっと具体的に学ぶ必要があると思う。

・「盲ろう者」の特性等を学ぶことは、通訳・介助をする上で、大変役立って現在に至っていると思います。技術その事自体は 5 時間×4 日間の講習会では特に大きな変化が生じたわけではありません。ただ、その後の養成講習会をお手伝いする機会があり感じたことがあります。手話を全く知らない状態で受講される方がおられることに驚きましたが、音声通訳につなげることが出来ました。盲ろう者を理解していただく手段にはなったかなと思っています。障害の程度によりそれぞれに関わり方があって、共に育っていきたいものです。

・きっかけになればいいと思う。手話や点字は時間がかかる勉強なので、あとは個人の努力次第では？

・通訳・介助をするには際限は無いと思うから、講習会は必要だと思います。

・この地区は視覚障害者(盲ベース）の講座ばかり行われる。聴覚障害（ろうベースでの養成講座を開いてほしいと思います。昨年の 11 月に××県での現任研修を受けて、目から鱗がはがれるように、とても勉強になりました・この地区ももっと当事者と一緒に学習をすべきだと思います。

・盲ろう者は 1 人 1 人状態が違うので、手話を身につけている盲ろう者には手話が有効でも、手話の使えない盲ろう者への対応の講習がほとんどなかった・通訳・介助員の講習を受けにくる人にろうの方が多く、手話メインになってしまったのかもしれないが…。実際に身内に盲ろう者を抱える身には、あまり実践的に思えなかった。弱視・難聴で、一見すると障害があるとわかってもらえない立場の人への配慮がもっとあってもいいと思う。

・統一されたテキストがないので、講習を受けていても、全国的なレベルに合ったものなのかどうか疑問に思った。

・受講者の中にはまったく手話・点字の経験のない人、ある程度できる人、すぐに通訳のできる人、それぞれです。介助、誘導の技術を重点にした方がよいと思う。
・講習会終了から数年過ぎ、最近の講習会で新たに内容が増えたり変わったりした所が追加受講を希望したい。
・大学生の時に王子の指点字サークルに時々行っていて、２０歳で訪問相談員の登録をし、その後××県で通訳・介助員をするには養成講習会に参加して修了しないと派遣できないと言われ、県主催の講習会に参加しましたが、すでに何年も通訳介助をしていた為、知っている内容ばかりだったので、ほぼ聴講していただけです。初心者の方には分かりやすい基本事項だったので、良かったのではないでしょうか？
・特にありません。過不足ないものだったと思っています。
・盲ろうの方々と接するに、介助員の現在を知らない方もおられますが…。そのような方々への連絡は、どの機関が中心になっておられるのか知りたいですね。いろいろお話してみると、世の中とても暮らし易くなっていると驚かれておられます。普及が足りないですね!!
・受講前に活動をしていたが、理論や盲ろう者の体験などを聞けて良かった。
・私は××県の講習会を受講しました。盲ろう者のためと言いつつ、実際は、ろう者中心の内容でした。手話ができることを前提とした授業だったので驚きました。私は手話が出来ません。まるで手話が出来ない人間は受け入れないという雰囲気でした。ろう者向けならそう銘打った形でやってください。盲ろう者向けと言っておきながら、内容はその通りではないので、おかしいと思います。
・盲ろう者は１人１人が全く違うので、講習でより多くの経験を積んでおく必要がある。どんなにやってもやりすぎることはない。
・盲ろう者のホームステイとして盲ろう者の生活を体験してみる。どんな感じられるかを実感してみたい。・もうろう者のＡＳＬ通訳をやってみたい。
・問 12 と問 13 の講習会があるのを知りません。登録は 2011 の夏です。案内があれば参加受講したいです。
・通訳介助活動中に東日本大伸際のような災害が起これば、盲ろう者も介助者自身も介助者の判断が生死を分けることになります。これまでの講習では介助の技能とコミュニケーション技能の向上が中心でした。このような災害の時の判断能力は、すべての介助者にあるとは言えません。災害の時の判断能力は介助者には必須条件ではないかと思います。
・地方にいると情報が少なく、技術面でも向上がないように感じられます。
・人によって通訳の方法がまちまち。講習会だけでは通訳はできない。実際に盲ろう者と接すると、講習会で習ったこととは違う場合が多い。盲ろう者について知るという面ではいいと思う。
・盲ろう者という障害はここにスキルへの要望もまちまちです。又介助方法も同じく個別に異なります。様々な技術を身につける上では講習会の受講は必須。たとえ自分が実際には使わないスキルであったとしても、盲ろう者で接する相手のスキルの基本を身につける（又は知る）ことも当然のことと思います。知識を身につける場として講習会なくしては考えられませんし、また、これ以上の養成講習会の時間を希望いたします。
・手話通訳（触手話、接近手話など）の部分のみを受け持つことのみ経験。介助の部分も大切だと思う。
・講習も大事だが、経験を通すことで分かってくることもある。講習受けても現場で役立たない人もいる。
・手引き、又コミュニケーション方法は、繰り返し講習を受け、身につけた方がよいと思う。
・今まで通り、幅広く取り上げて行ってもいいと思います。

・私が受講した頃に比べると、現在の講座は実技、観察、実習など現場に即役に立つカリキュラムになっています。現状で十分だと思います。
・盲ろう者の通訳介助には様々な方法がありますが、特に手話については講習会の中だけでは身につけることは困難なため、もともとの手話奉仕員や手話通訳者の方に受講して頂いて、登録し、活動できるようにしています。××県では盲ベース、ろうベース、難聴ベースなどそれぞれのあわせた講座内容を考え、当事者の状況を知ったり、支援者としての在り方などを取り入れて進めています。盲ろうの障害をよく知り、その支援者としての在り方を十分学べる内容になるとよいのではないでしょうか。
・一人一人の障害に対するサポートが違うので、なかなか覚えきらないままで講習を終えました。専門性を持つためには、日々の努力が必要なのでしょうね。
・病院や役所など医療現場や公共の場で働く人達に盲ろう者の事を勉強してもらって、もっと理解していただきたい。
・いつも決まった方なので、講習会に参加し、多数の方の介助経験が出来るので良いと思う。
・介護職のため、長く手話を休んでいたので、まず私の場合、手話の勉強から、やり直しが必要だと思いますが、1 昨年、膝の故障で仕事を辞め、聴覚・言語障害のデイサービスに勤務をしていましたが、ここも体調不良（膝、肩）で辞めました。講習会は必要だと思います。盲ろう者でもいろんなコミュニケーションがあるため、1 人では勉強はできません。
・問 16 で①（「講習会はとても役に立つ」）と答えたのは、今までろう者との交流・通訳はあったが、初めて盲者について触れることが出き、盲ろうについて学ぶことが出きたため
・講習会は自分のスキルアップ、又は確認のためにも必要だと思っています。
・××県における講習会では、受講者が少なく、毎年同じ人間が受講している。手話、点字など途中で断念する人がいて、最後まで覚える人は少ないと思う。
・私は手話通訳・介助員養成講座を受講したので、盲ろうについてのはしていない。盲ろう介助員登録をしていて、年 2 回の講習を受け、とてもよかったと思います。（レベル的にはまだまだついていけませんが…）
・あれもどれも一度に教わるので、なかなか習得までいかない
・実は、盲ろう者向けの通訳・介助員は、そろそろ辞めようかと思っています。そんな時に、このアンケートがきました。今までの思いの集大成を聞かれたような気がしました。これからは、手話通訳者として聴覚障害者を、ガイドヘルパーとして視覚障害者を支援していきたいと考えております。
・問 16 は 3 に○をつけましたが、通訳・介助員養成講習会での勉強は大切と思いますが、その後活動するなかで、学ぶことがたくさんあると思います。通訳介助活動をしてこそ、役に立ったなと感じることが多いと思います。活動がない人にとっては、学んだことをいかしていく場所がなく、勉強しましたということになってしまうのではないかと思います。
・全くゼロから受講する方もいるので、当県の 10 回か 15 回の講習では、実際の通訳介助は無理。もちろん自分で「手話」「点字」「PC」など学習するのが大前提ですが、募集時点でもある程度「資格や技術」について説明したり制限をもうけないと、講習しても実際の現場に出る事はないです。
・作業所および研修会で、サポートしながら学ぶ方が身につくような気がしますが…。講習会は手話も経験のないところから始めたので、大半の人は手話経験があるみたいだった。
・私の場合、手話講座（県主催の奉仕員養成）、点訳（点字）は赤十字主催の講座で手ほどきを受ける。その後、盲ろう介助者養成講座を受講したことで、点字が指点字の使用につながり、手話が触手話につながった。また要約筆記の方は 2012 年度より県の要約筆記者養成講座が開催となり、各種講座での補

修的な部分が重なることで、介助の中身の充実につながっている。
・特に盲ろうの方と接して、どんな介助が必要なのかを知る事ができますので、どの講習会も有意義なのですが、自分自身の努力が足りなくて技術を身につけることができていません。恥ずかしい限りですが、気持ちだけはより添いたいと…いつも気付かされています。
・あまり身近に感じられない。地域の中で、どの程度の立場でいるべきか、どんな流れで通訳として派遣されるのが良いのか等。方法論ばかりで、実際の動きが不明であり、受講してから今まで1度も活動場面を見たことがない。
・理解を深めるためには、全般的な講習不可欠　・次へのステップ講習、ピンポイント内容を希望します。
・受講から日にちが経ちすぎていて覚えてません。
・受講がだいぶ前のことでわかりません
・受講した後は個人の学習が必要と思う。
・1999年に受講した時は、はじめての経験と講師の方がやさしく、ていねいに指導していただきました。又講習を受けたいと言う気持ちになりました。2004 年の時は盲ろう者（指導者）はやさしく又わかりやすく指導していただいたのですが、通訳の方（盲ろうの）のきつい言い方（人をばかにした言い方）にみんな（受講された者）そこまで言わなくてもと抵抗していた。今回は合計3回受けましたが、又受けたいと言う気持ちにはなりませんでした。でも介助には必要な知識は身につけたい。そのための講習は必要かと思いますが、通訳の方が…
・私自身年齢的に手話を始めたのも遅く得意ではない。ただこの地域の盲ろう者に支援をしたいと思い始めました。あとを引継ぐまで下手な触手話でと思っています。
・手話点字にしても1回の講習では身につかず、盲ろうの方の存在はわかりましたが、同じ方と何回もお会いしていないと、毎回異なる方とお会いするのはコミュニケーションがとりにくいと思います。
・地域に沿った内容で実施するのがベストでしょう。
・自分の地域にいる当事者が必要としている通訳・介助の講習時間を多く取り入れた内容
・地元の盲ろう者のコミュニケーション方法に合わせての講習が大切と思います。
・受講者の年齢にもよると思います
・通訳・介助者としての基本（一対一の会話でなく）通訳技術・通訳者としての倫理。カリキュラムの中で必要でないものはない。手話や点字の基本、ある程度技術を習得している人が受講していれば、手話や点字の講習は外すことができるが、そういう人たちばかりは集まらない。
・県の福祉担当者は通介助員登録者数の目標数値ばかり言う。養成講座の修了者は県に登録させれば、累計数何百人になっても当たり前のこと。こんな数字は何の意味もない！実際に活動できる人はその 1/10 に近い。他の人は講習終了とともに無関係になっている。2、3 年毎に更新の有無の確認をする必要あり
・カリキュラムであがってきた受講内容にじかんばかりかかり、卒業後の活動に結びついていない。どんな通訳・介助者を育てたいのか目的が分からない。時間を消化すれば登録につながり、その後のフォローもない状態。（手話に○時間、点字に○時間、移動支援に○時間…という時間の振り分け）
・講習内容ではないが、講習会に参加して気になった点があります。初めて参加した日の昼食の時間の事でした。受講生には昼食持参としながら、盲ろう者の方々と主催者の友の会の方々はテーブルを囲み、自分達だけ弁当を調達していました。私は疎外感を強く感じ、不愉快になりました。盲ろう者の方とコミュニケーションを図る事もできず、本当に介助方法だけ学んで終わってしまいました。
・すべてが、初めて知る事が多かったので、必要ではない内容はありませんでした。

・盲ろうの方々、個人個人の思い、コミュニケーション方法など、一人一人を大切にした内容にしてほしい。特にコミュニケーションがむずかしい方や、外出に配慮が必要な方など、こまやかな気配りの大切さを知らせてほしい。コミュニケーションの技術はその後でもいいと思う。
・講習は必要だと思います。そのつど内容が変わっていたりしますので、それと自分自身の勉強にもなります。
・不必要なもの：経験談、福祉課の方の話
・密度の高い講習を受けたい。何度でも受講できたら良いと思っている。
・マナー、移動介助の実習、ブリスタを使っての点字の講習を受けたかった。
・中身の濃いもの望みます
・個々の盲ろう者本人が「どのように介助を受けたい。どういう通訳・介助方法がよく理解できる」など、実務的な内容もあるとよい（今年度はありました）　・すべての講座に盲ろう者が出席し、そのペースで進行するのも意義はあるが、健聴者に合った（早い）ペース進行し、内容を厚くする日もあってよいのでは（今では盲ろう者のペースに訓れているが）
・県内に触手話、点字の通訳を必要としている障害者がいないため体験する機会が少ない。通常、手っ取り早い音声通訳・手書き通訳が多くなる。しかし、通常使用しない通訳方法の講習は必要と考える。
・すべて必要であったと思う
・広域での講習会は必要。行政職の方には特に必要。
・全国盲ろう者協会主催の現任研修会（大阪府）には参加しています。盲ろう者にあった通訳方法が必要であれば、講習はすべてするべきですが。盲ろう者の数により通訳方法も肩よりがあると思います。盲ろう者一人一人により良い通訳を提供するためには偏った講習になっても仕方ないと思います。個人的に研修を受けたいのは、指点字。複数の通訳方法を身につける必要があります。
・特に必要なコミュニケーション方法を集中的にやるとよいのでは。誘導の方法についてはもっと外に出て実習する必要があるのでは。盲ろう者との交流を入れると良い。
・コミを講習会で身につけるというのは違うと思います。方法を知るというところまでだと思う。もちろん必要ですが。盲ろう者と接するマナー、実習によう気づきは大切。
・最近講習に関わっていないのでわからない。
・人と人とのコミュニケーションの場であります。どうか心優しくて己に厳しい人を選出してください。通訳がベテランであるとか、手話の経験豊富であるかは別問題であります。痛切に感じています。
・コミュニケーションをとるのがなかなか難しいので、まずはいかにスムーズに初対面の人でもうまくやりとりできるかの方法があれば、それの講習をしていただきたい。
・指点字や手話などのコミュニケーションを学ぶ必要があるから、ていねいに教えた方がいい。
・コミュニケーションの方法が多くあり難しい（年齢のせいかも）
・指点字と手書き文字、手のひら書きはとても難しいと思うけど、苦手です。盲ろう者のことが大変なので、負けずに頑張っていきたいと思います。
・盲ろう者によってコミ方法が違うので、すべて学ぶ必要があると思います。特に手書き文字に…しては、話し言葉を書けないので、要点のつかみ方を学べたらと思っています。すべての通訳方法に当たると思います。
・盲ろう当事者にあったコミュニケーション方法の実際を実例を交えて学習したい。
・コミュニケーション方法が手話と手書きだけだったので、点字や指点字も講習があればよい。単一の障害と重複障害の違いや制度なども学習したい。

・自分自身での確認を含めて、ローマ字式指文字、日本語式指文字の講習を再度受講したいです。
・ろうベースの場合は手話通訳の経験をいかしていけるが、盲ベースの盲ろう者がいないので学習の機会が少ない。盲ろう者と通訳・介助者共に学習できる講習が必要だと思う。
・全国盲ろう者大会に参加し、いろんなコミュニケーション方法があるという現場を見て、これなら自分にもできるということがわかりました。県内での交流会だけではコミュニケーション方法が限られています。養成講習会で数時間学んだばかりの時には、自分には通訳、介助は難しいと思っていました。全国大会の時の通訳現場のビデオや、会議の様子のビデオ、移動介助、車いすの操作等のビデオを見るだけでも、全国大会に参加してみようと思うのではないでしょうか。
・自治体の養成講習会はあっていない。コミュニケーションの講習をお願いしない。
・申込書の内容により、スキル別にコミ方法を割り振られてしまった。私自身は、点字以外の手話、音声、手書き文字をもっと体験したかった。

B. 通訳・介助の依頼がない

・まず登録しても依頼がない。当県ではある会があり、その会員にならないと介助の仕事は出て来ません。
・講習の依頼が…年間ない
・ガイドヘルパーをしているので、昔から習っていた手話を少しは生かしたいと思い、受講しましたが、仕事がありませんでした。仕事なしで登録料のみ払うのでは、と思い、現在は資料ももらっていません。せっかく受講したので、実践出来るようにしてもらえればと思います。
・一回(10 回）講習では無理。年に数回ステップアップ講習必要。介助員登録はしていても、1 回も連絡なし。何のための登録かよくわからない。
・講習を受けても活動するところなし。地元に盲ろうの方がいないので、活用することが無い。わすれてしまいそうです。一年に一度は講習会をしてほしいです。手話で会話することがあっても介助員としての活動の場がありません。
・協会に登録しましたが、依頼はなく、講習会をやってもあまり意味ないと思います。介助員の人はいつも同じ人ばかりです。あれでは他の人は育たないと思います。

C. 現場への不安

・講習会の内容が少なすぎて、現場に出向くのは不安。盲ろう者の心理や実技の部分等をカリキュラム化する位、最低ラインの講習会であってほしい。ホームヘルパーの基礎知識等もっているぐらいが望ましいと思う。
・時間数は忘れたが、3 日間講習があった。各内容もう少し掘り下げて講習しないと、介助は恐ろしくてできないと思うのが実状です。
・とにかく、どの分野（手話、点字、介助方法等）でも、時間が短い。不安を抱えて通訳・介助活動に出なければならないことで会員になること（登録）をためらう人は多いと思う。
・介助方法の実技時間をもっと増やして下さい。とても難しく、講習会終了しても、介助員として動くのに不安です。自信持って援助できないと感じます。全体的に時間数を増やして欲しいです。
・歩行介助は時間不足のように思います。（介助を行う場合の不安に繋がります。）
・講習時間だけでは、すぐ介助とかは自信がない。
・現場に行っておそるおそる通訳を学ぶ感じでこわかった。
・通訳・介助に関しては短時間では身につけるのは難しく、大切なポイント・注意点を学ぶ機会と考えま

す。介助に関しては、実技・実践が館内・室内のみなので、終了後すぐに実際の通訳介助には大きな不安がありました。時間数も足りませんでした。

D. ろうの通訳・介助

・ろう者が通訳・介助員のときの通訳技術。ただ発語のまねをすれば良いというわけではなく、要約などの技術も必要だと思う。
・ろう者の通訳と介助員の通訳・介助の違いを（盲ろう者に対して）もう少し掘り下げて講習を受けたい。
・登録者のろう者（男女）が年１回でも良いので、意見交換ができる場があると、ベテランの人からの話が聞けたら良いし、参考が出来ればより向上できるのではないかなと思います。
・ろう者の場合、ろうベース盲ろう者への支援をするので、指点字などの学習は必要ないと思います。

E. 全国統一カリキュラム

・盲ろう者福祉の動きが始まった 1980～1990～2013 年現在は全国の都道府県に派遣・養成事業が法律に伴って義務付けられるようになりました。近年は盲ろう者の社会参加も広がり、幅広い分野での派遣が課せられています。情報保障の確立と盲ろう者の自立支援ができる講座内容の全国統一的な水準にもっていけるような講座（講習）の検討が今後必要と思われます。
・地域の盲ろう者のニーズに合ったコミュニケーション対応。講習会のカリキュラムを全国統一に。

F. 資格・試験の必要性

・終了時点で何らかの確認テストもあればよい。
・盲ろうの通訳・介助員も手話通訳者や通訳士のように公的な資格ができると良いと思う。

G. 通訳・介助員同士の集まり

・通訳・介助者同士のフォロー体制
・全国盲ろう者協会の盲ろう者向け通訳・介助員養成研修会を受けたことがない。指点字が必要ない。手話ができる人の集まりが必要。

３．通訳・介助に関する活動状況について

（１）通訳・介助活動歴

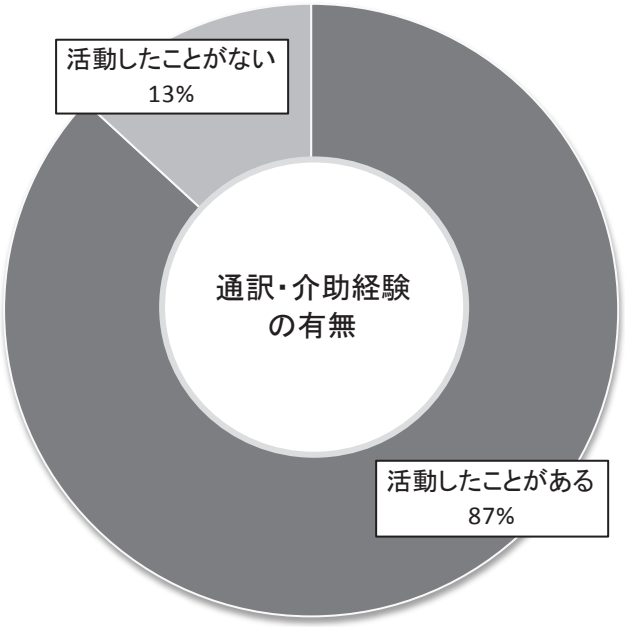
■ 通訳・介助活動経験の有無

通訳・介助について「活動したことがある」とする人の割合は 86.9%

表 2-3-1　通訳・介助活動経験の有無

	人数	割合
活動したことがある	1455	86.9%
活動したことがない	220	13.1%
合計	1675	100.0%

図 2-3-1　通訳・介助活動経験の有無



■ **通訳・介助をしたことのない理由**

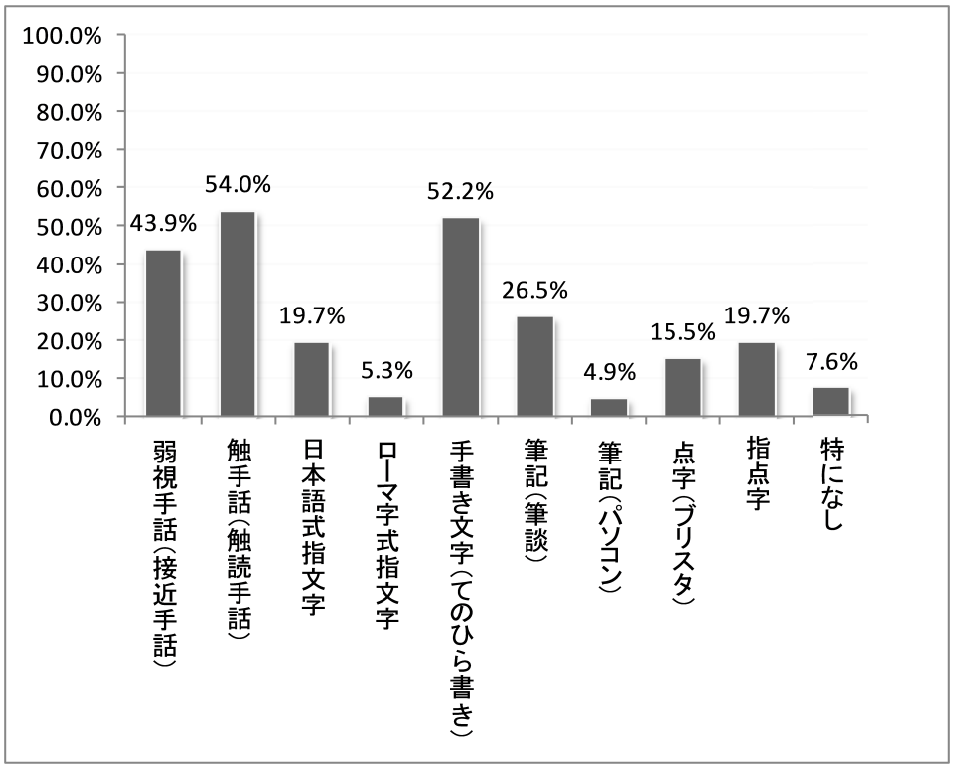
「依頼がない」が最も多く 46.4%

・次いで、「技術に自信がない」34.1%、「時間的余裕がない」30.9%と続く。

表 2-3-2　通訳・介助をしたことのない理由

	人数	割合
依頼がない	102	46.4%
時間的余裕がない	68	30.9%
体力に自信がない	12	5.5%
技術に自信がない	75	34.1%
登録したばかり	33	15.0%
その他	23	10.5%

図 2-3-2　通訳・介助をしたことのない理由



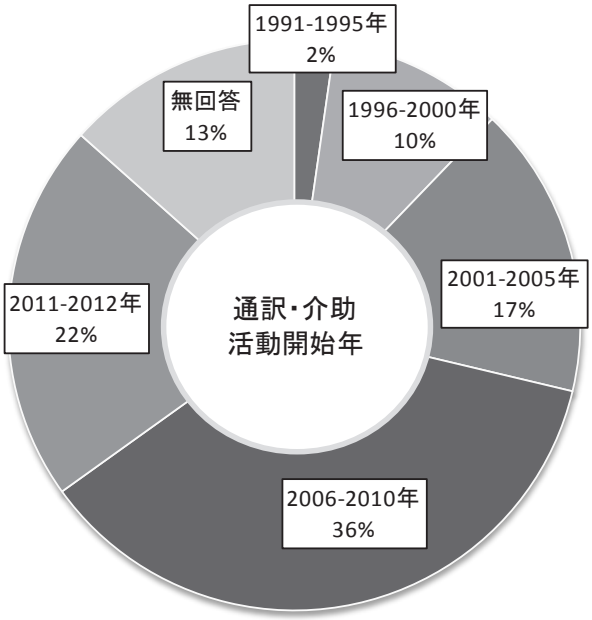
■ 通訳・介助活動開始年

通訳・介助活動経験のある人の中では「2006-2010 年」に開始した人の割合が最も高く 36.4%

・次いで、「2011-2012 年」21.5%、「2001-2005 年」16.6%と続く。

表・図 2-3-3　通訳・介助活動開始年

	人数	割合
1991-1995年	33	2.3%
1996-2000年	144	9.9%
2001-2005年	241	16.6%
2006-2010年	529	36.4%
2011-2012年	313	21.5%
無回答	195	13.4%
合計	1455	100.0%



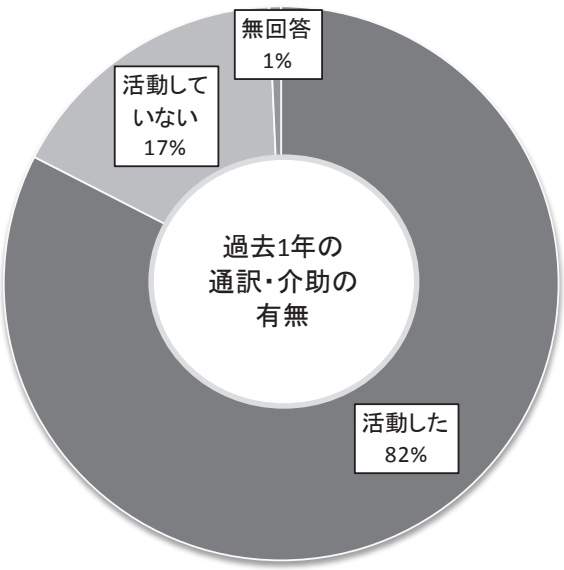
（２）過去１年間の通訳・介助活動状況

■ 過去１年の通訳・介助活動の有無

通訳・介助活動経験のある人の中で過去 1 年の通訳・介助「活動した」人の割合は 82.5%

表・図 2-3-4　過去１年の通訳・介助活動の有無

	人数	割合
活動した	1201	82.5%
活動していない	244	16.8%
無回答	10	0.7%
合計	1455	100.0%



■ **過去１年通訳・介助をしていない理由**

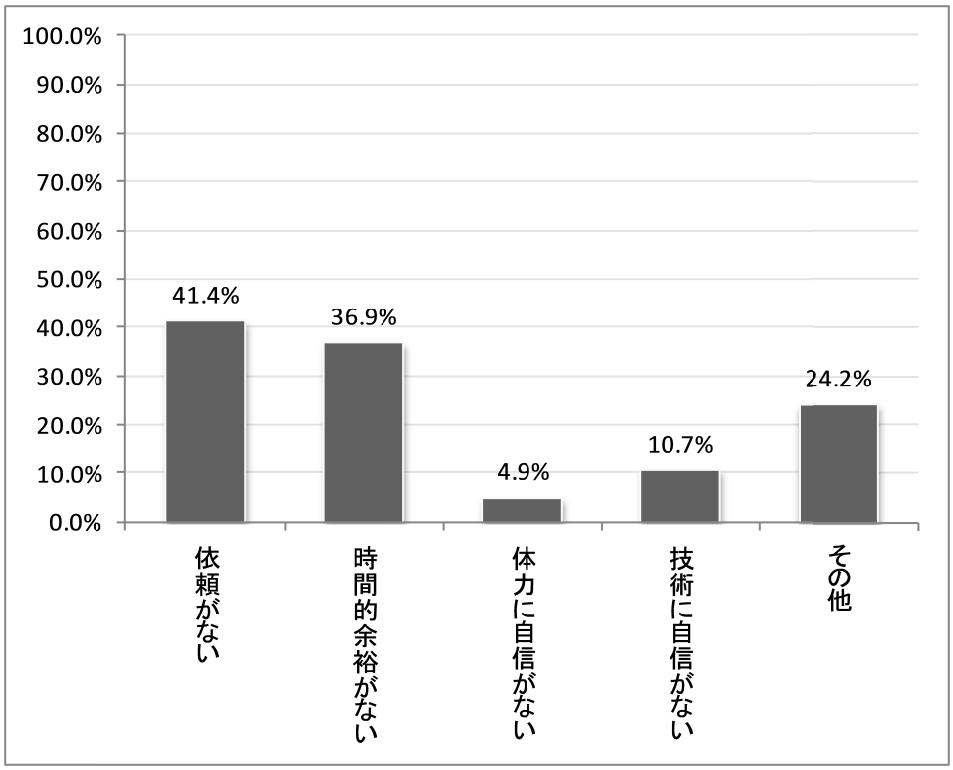
「依頼がない」が最も高く 41.4%

・次いで、「時間的に余裕がない」36.9%、「技術に自信がない」10.7%と続く。

表 2-3-5　過去１年通訳・介助をしていない理由

	人数	割合
依頼がない	101	41.4%
時間的余裕がない	90	36.9%
体力に自信がない	12	4.9%
技術に自信がない	26	10.7%
その他	59	24.2%

図 2-3-5　過去１年通訳・介助をしていない理由



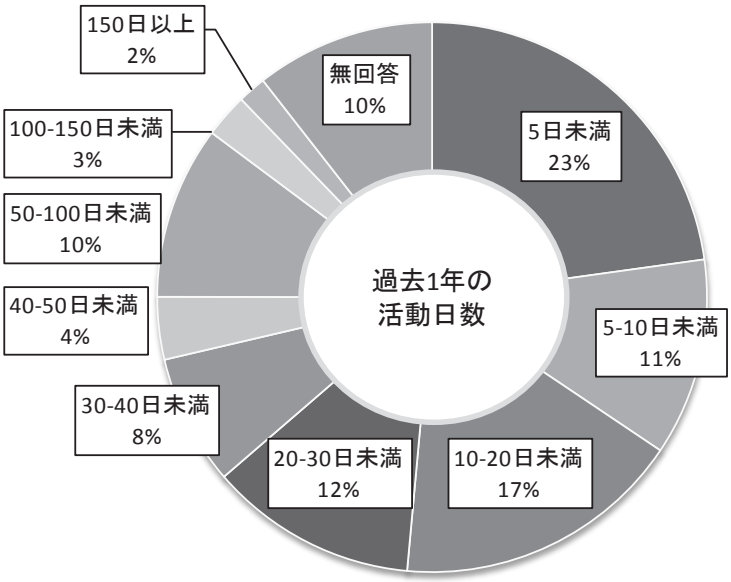
■ 過去１年の通訳・介助活動日数

過去１年に通訳・介助活動をした人の中で「5 日未満」とする人の割合が最も高く 22.8%

・次いで、「10-20 日未満」17.1%、「20-30 日未満」の 12.2%と続く

表・図 2-3-6　過去１年の通訳・介助活動日数

	人数	割合
5日未満	274	22.8%
5-10日未満	139	11.6%
10-20日未満	205	17.1%
20-30日未満	147	12.2%
30-40日未満	92	7.7%
40-50日未満	44	3.7%
50-100日未満	122	10.2%
100-150日未満	31	2.6%
150日以上	20	1.7%
無回答	127	10.6%
合計	1201	100.0%



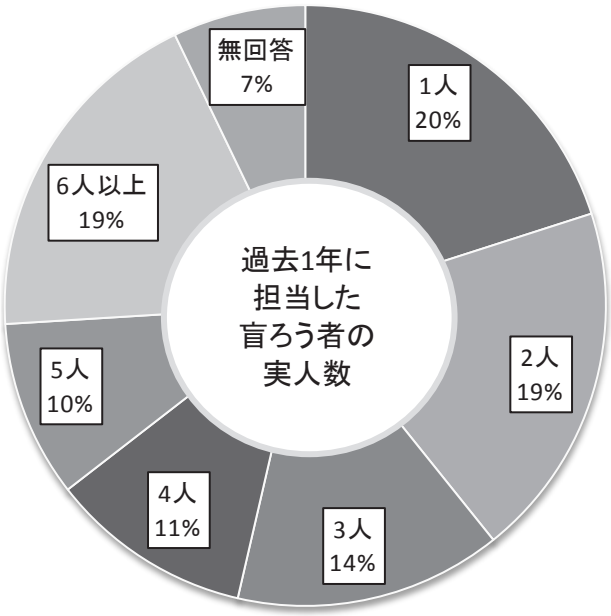
■ 過去１年に担当した盲ろう者実人数

「1 人」とする人の割合が最も高く 20.1%

・次いで、「2 人」19.2%、「6 人以上」18.8%と続く。

表・図 2-3-7　過去１年に担当した盲ろう者実人数

	人数	割合
1人	241	20.1%
2人	230	19.2%
3人	173	14.4%
4人	131	10.9%
5人	114	9.5%
6人以上	226	18.8%
無回答	86	7.2%
合計	1201	100.0%



（３）担当盲ろう者の年齢層

■ **担当したことのある盲ろう者の年齢層**

担当したことのある盲ろう者の年齢について「中年層」が最も高く 80.2%

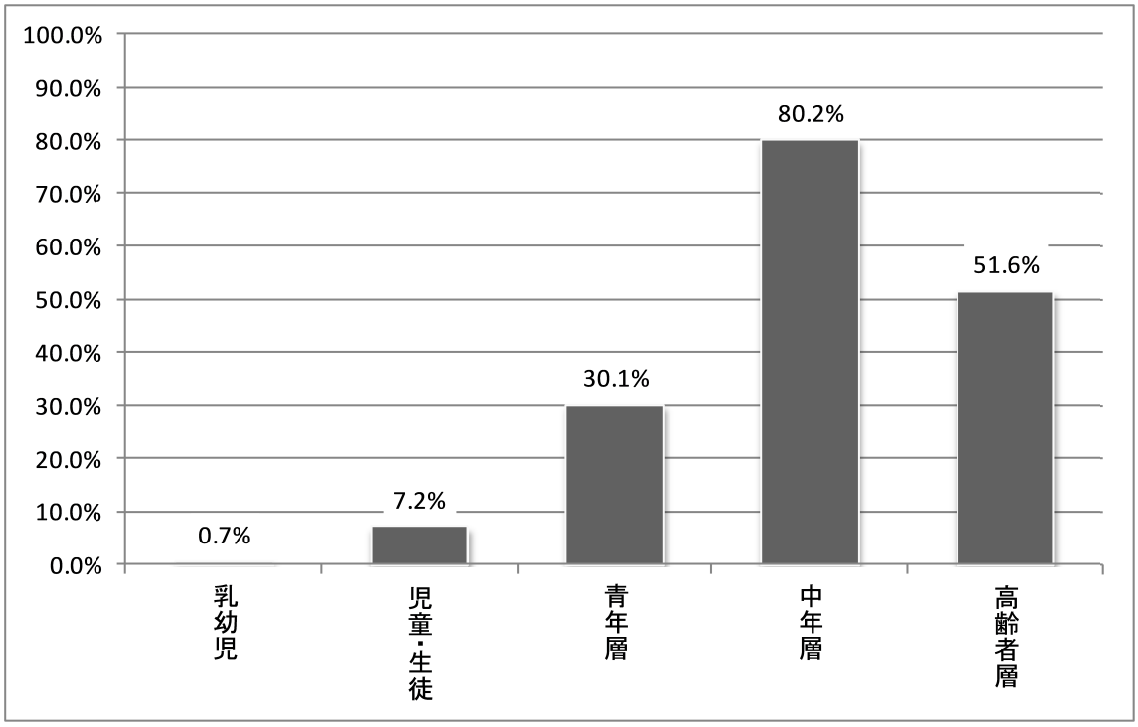
・次いで、「高齢者層」51.6%、「青年層」30.1%と続く。

・「乳幼児」が低く 0.7%となっている。

表 2-3-8　担当したことのある
盲ろう者の年齢層

	人数	割合
乳幼児	8	0.7%
児童・生徒	87	7.2%
青年層	362	30.1%
中年層	963	80.2%
高齢者層	620	51.6%

図 2-3-8　担当したことのある盲ろう者の年齢層



■ 最も通訳・介助を担当した盲ろう者の年齢層

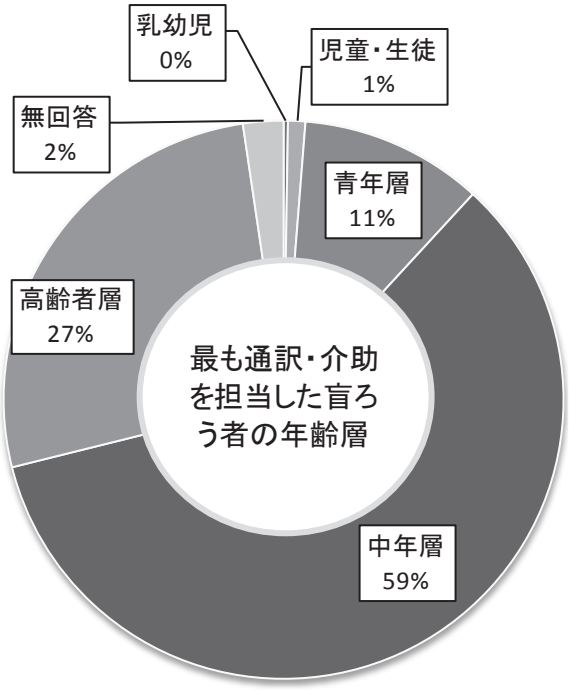
最も通訳・介助を担当した盲ろう者の年齢層について「中年層」が最も高く 20.1%

・次いで、「高齢者層」26.6%、「青年層」10.6%と続く。

・「乳幼児」が最も低く 0.2%となっている。

表・図 2-3-9　最も通訳・介助を担当した盲ろう者の年齢層

	人数	割合
乳幼児	3	0.2%
児童・生徒	12	1.0%
青年層	127	10.6%
中年層	712	59.3%
高齢者層	319	26.6%
無回答	28	2.3%
合計	1201	100.0%



（4）担当盲ろう者のコミュニケーション方法

■ 担当したことのある盲ろう者の受信方法

「触手話」が最も高く 63.4%

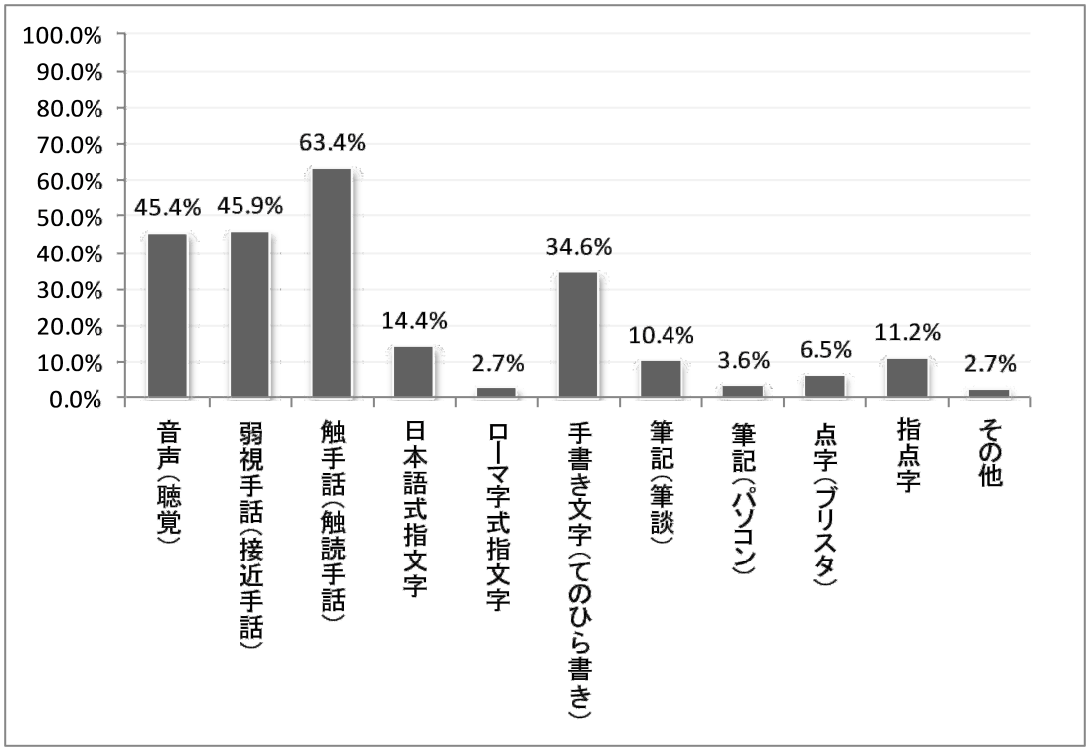
・次いで、「弱視手話」45.9%、「音声」45.4%と続く。

・「ローマ字式指文字」、「指点字」がいずれも最も低く 2.7%となっている。

表 2-3-10　担当したことのある盲ろう者の受信方法

	人数	割合
音声（聴覚）	545	45.4%
弱視手話（接近手話）	551	45.9%
触手話（触読手話）	762	63.4%
日本語式指文字	173	14.4%
ローマ字式指文字	33	2.7%
手書き文字（てのひら書き）	416	34.6%
筆記（筆談）	125	10.4%
筆記（パソコン）	43	3.6%
点字（ブリスタ）	78	6.5%
指点字	135	11.2%
その他	32	2.7%

図 2-3-10　担当したことのある盲ろう者の受信方法



■ **最も通訳・介助を担当した盲ろう者の受信方法**

「触手話」が最も高く 35.1%

・次いで、「音声」20.5%、「弱視手話」14.8%と続く。

・「ローマ字式指文字」、「指点字」が最も低く、いずれも 0.8%となっている。

表 2-3-11　最も通訳・介助を担当した盲ろう者の受信方法

	人数	割合
音声	246	20.5%
弱視手話	178	14.8%
触手話	421	35.1%
日本語式指文字	13	1.1%
ローマ字式指文字	10	0.8%
手書き文字	48	4.0%
筆談	22	1.8%
パソコン	12	1.0%
点字	10	0.8%
指点字	39	3.2%
その他	13	1.1%
無回答	189	15.7%
合計	1201	100.0%

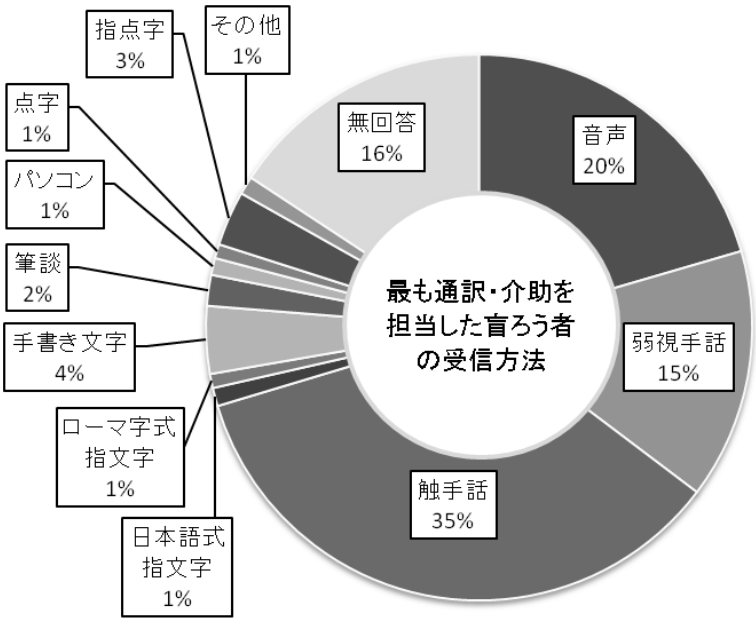



図 2-3-11　最も通訳・介助を担当した盲ろう者の受信方法